

年 報 30

2013年度
(平成25年度)

2014. 10

山梨県埋蔵文化財センター

序

山梨県埋蔵文化財センターが開所31年となる平成25年度に実施しました、発掘調査事業・考古資料の普及活用事業・史跡の活用事業の概要は次のとおりです。

記録保存目的の本格的な発掘調査は、県内7カ所で実施しました。身延町和田字平林に建設される中部横断道（仮称）身延山IC建設予定地の平林遺跡では、縄文時代前期後半から中期初頭の堅穴状遺構や土坑等を検出しました。富士河口湖町河口地内の河口湖BP（仮称）新倉トンネル西口にある滝沢遺跡第三次調査では、古墳時代・奈良平安時代に位置づけられる建物跡を検出し、特に朱墨が確認された転用硯は、古代官道との関連で注目されます。都留市上谷地内の県立興譲館高校整備事業に伴う三ノ側遺跡では、校舎の解体工事で建設工事の調整を行いながら調査しました。甲府市丸の内1丁目の山梨県庁舎耐震化整備事業では甲府城楽屋曲輪内の温泉関連遺構を、甲府駅南口周辺地域修景計画事業では武家屋敷の厩との指摘もある大型の掘建柱建物それぞれ検出しました。山梨市北地内では、西関東自動車道建設に伴う膳棚遺跡の発掘調査を昨年度に引き続き行いました。

遺跡の試掘立ち会い調査は、県庁舎耐震化整備事業、中部横断道建設事業、甲府駅南口周辺地域修景計画事業、（仮称）笛吹IC建設事業、国道20号線大月BP建設事業、国道411号線改良事業等、県内各地44カ所で行いました。中でも大月建設予定地内（大月市花咲）の試掘調査では、縄文時代前期を中心とする大石遺跡を新たに発見しました。

県指定史跡甲府城跡で継続的に実施している石垣補修事業は、天守台西面や本丸西面等で実施しました。

山梨県教育委員会は、史跡の活用を図るために埋蔵文化財センターの所掌事務に史跡を追加する「山梨県教育庁組織規則」の一部改正を行い、埋蔵文化財のほか、史跡の調査研究及び活用を一層推進していくこととしました。この改正に基づき、平成25年1月以降は県史跡甲府城跡の鉄門等を会場に季節ごとに様々なイベントを当センターが中心となり開催しております。このようななか、平成25年10月に甲斐風土記の丘公園中央部に位置する大丸山古墳が、国史跡に指定されたことは、大変喜ばしい事であり

ます。

また、情報発信を一層進めるため、平成24年12月に山梨県教育委員会と信州大学付属図書館が山梨県遺跡リポジトリ協定を締結しました。これによりまして、一部例外を除き信州大学の協力のもとに報告書の電子公開を推進しております。

東日本大震災から3年半が経過しています。山梨県教育委員会では被災地の一日も早い復興を願い、当センター職員を平成23年度から宮城県に2年間派遣して被災地復興に協力して参りましたが、平成26年度は岩手県教育委員会に1名の職員を派遣しております。

これからも本県の埋蔵文化財・史跡の調査研究・保存・活用に努めて参りますので、埋蔵文化財の保護に、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成26年10月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻 與志夫

目 次

序

凡例・職員組織

第Ⅰ章 2013年度の事業概要

1	発掘調査等	1
2	整理作業	1
3	資料普及事業	2
4	収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧	4
5	第24回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	8
6	遺跡調査発表会	8
7	山梨の遺跡展2014	9
8	広報誌埋文やまなし	10
9	県指定史跡甲府城跡活用事業	10
10	遺跡データ管理（GIS）	11
11	報告書PDF化（遺跡資料リポジトリ）	11
12	埋蔵文化財センター峡北収蔵庫遺跡まなび館	12
13	寄贈・購入図書	12

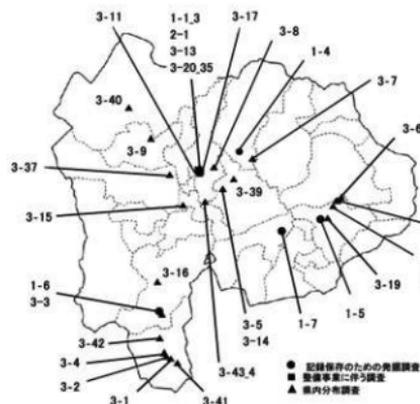
第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

1	記録保存のための発掘調査	
1-1	甲府城跡（県庁舎耐震化等整備事業；委員会室棟）	13
1-2	甲府城跡（南口修景計画；県民会館駐車場）	15
1-3	甲府城下町遺跡（南口修景計画）	17
1-4	膳棚遺跡E区	19
1-5	三ノ側遺跡	20
1-6	平林遺跡	22
1-7	滝沢遺跡（第3次）	24
2	整備事業に伴う調査	
2-1	県指定史跡甲府城跡石垣整備事業	26
3	県内分布調査	28

第Ⅲ章 県内の概説

1	届出件数と内容	53
2	発掘調査	53
3	国指定有形文化財（考古資料）及び国指定史跡	53
4	発掘調査の成果と保存整備事業	53
5	発掘調査体制	54
	発掘届出件数・発掘調査件数の推移・2013年度県内発掘調査一覧表	55～61

凡 例



2013年度 発掘調査等遺跡位置図

- 1 本書は、2013年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 2 本書の編集は、野代恵子・長田隆志が行った。
- 3 2013年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2013年3月末日現在で集計したものである。
- 4 第2章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の()内は、調査対象面積である。
- 5 左記の地図は、2013年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、1頁の発掘調査の表に対応している。

2013(平成25)年度 職員組織

所長	八巻 與志夫
次長(兼)	福島 一雄
総務課長(兼)	福島 一雄
調査研究課長	保坂 康夫
資料普及課長	山本 茂樹

総務課	
副主査	齋藤 浩志
主任	浦郷 敬
主事	桜井 綾夏
主任(事)(兼)	中山 尚行

調査研究課 調査第一担当	
副主幹・文化財主事	今 福利 恵
主査・文化財主事	宮里 学
非常勤嘱託	塩谷 風季
非常勤嘱託	花形 裕

資料普及課 資料第一担当	
副主幹・文化財主事	村石 眞澄
副主幹・文化財主事	由井 正昭
副主査・文化財主事(兼※)	網倉 邦生
文化財主事	須長 愛子

調査研究課 調査第二担当	
副主幹・文化財主事	田口 明子
主任・文化財主事	正木 季洋
主任・文化財主事	青木 真一
文化財主事	柴田 亮平

資料普及課 資料第二担当	
副主幹・文化財主事	保坂 和博
主査・文化財主事	三田村 美彦
副主査・文化財主事	野代 恵子
非常勤嘱託	加々美 鮎実

調査研究課 調査第三担当	
副主幹・文化財主事	小林 健二
主任・文化財主事	永田 亮一
文化財主事	御山 亮济
非常勤嘱託	長田 隆志

※企画県民部国民文化祭課と兼務(H26.1より)

第 I 章 2013年度の事業概要

1 発掘調査等

2013年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第二章で述べることとする。

1) 記録保存のための発掘調査

番号	調査名	番号	調査名
1-1	甲府城跡(県庁舎耐震化等整備-委員会案種)	1-5	三ノ側遺跡
1-2	甲府城跡(南口移設計画)・甲府城再整備	1-6	平林遺跡
1-3	甲府城下町遺跡(南口移設計画)・駅前駐輪場	1-7	滝沢遺跡
1-4	勝峰遺跡B区		

2) 整備事業に伴う調査

番号	調査名
2-1	県指定史跡甲府城跡(石垣整備事業)

3) 県内分布調査

番号	事業名(試掘調査)	番号	事業名(立会調査)
3-1	中部横断自動車道建設事業(身延町富士矢島地内)	3-16	中部横断自動車道建設事業(身延町下山地内)
3-2	中部横断自動車道建設事業(身延町富士平地内)	3-17	国道411号古野川中流段浅原橋撤去工事(甲府城下遺跡)
3-3	中部横断自動車道建設事業(身延町富士平地内)	3-18	国道411号松崎町(新田地内)
3-4	中部横断自動車道建設事業(身延町富士平地内)	3-19	甲府地方家庭裁判所都留支部仮設建物建設事業(谷村城跡)
3-5	面吹スマートインターチェンジ建設事業	3-20	山梨県庁舎耐震化等整備事業(埋設配管工事)4月22日～
3-6	国道20号(大月バイパス)建設事業(空地遺跡)	3-21	山梨県庁舎耐震化等整備事業(埋設配管工事)5月21日～
3-7	国道411号太郎山(勝峰)地区	3-22	山梨県庁舎耐震化等整備事業(ガス配管工事、GHP接続工事)(甲府城跡)
3-8	国道140号緊急道路整備補修事業(大坪遺跡)	3-23	山梨県庁舎耐震化等整備事業(シンボルタワー補修)(甲府城跡)
3-9	国道141号緊急交通安全改良工事(元ノ前第4遺跡、資本遺跡)	3-24	山梨県庁舎耐震化等整備事業(越後橋地盤改良工事)(甲府城跡)
3-10	国道20号(大月バイパス)建設事業(大石・水路)	3-25	山梨県庁舎耐震化等整備事業(県庁東部解体在田工事)(甲府城跡)
3-11	甲府地方地質庁別館解体及び新車庫建設工事(大坪遺跡)	3-26	山梨県庁舎耐震化等整備事業(焼酎地盤改良工事)(甲府城跡)
3-12	リニア見学センター-整備事業	3-27	山梨県庁舎耐震化等整備事業(霞り塚下基礎撤去工事)(甲府城跡)
3-13	山梨県庁舎耐震化等整備事業(ガス管撤去工事)(甲府城跡)	3-28	山梨県庁舎耐震化等整備事業(霞り塚下基礎撤去工事)(甲府城跡)
3-14	県営住宅八代団地駐車場整備事業(真道原遺跡)	3-29	山梨県庁舎耐震化等整備事業(外部埋設管撤去工事)(甲府城跡)
3-15	鎌田川河川改修工事(鎌田川田間防遺跡)	3-30	山梨県庁舎耐震化等整備事業(外部埋設管先行撤去工事)(甲府城跡)
		3-31	山梨県庁舎耐震化等整備事業(電気設備工事)(甲府城跡)
		3-32	山梨県庁舎耐震化等整備事業(電気設備工事)(甲府城跡)
		3-33	山梨県庁舎耐震化等整備事業(電気設備先行埋設工事)
		3-34	山梨県庁舎耐震化等整備事業(覆り棚下管路工事)
		3-35	山梨県警本部通信施設整備事業(甲府城跡)
		3-36	東部地域総合新高校建設事業(三ノ側遺跡)
		3-37	白根高等学校第二グラウンド人工芝整備外工事事業
		3-38	新原高等学校体育館改修工事(大原遺跡)
		3-39	かよで支援学校分教区体育館修繕工事
		3-40	国立北杜高等学校下水管及び下水改修工事事業(旧町農事高校前遺跡)
		3-41	急傾斜地崩壊対策事業(南田町富士土)(火打石遺跡)
		3-42	急傾斜地崩壊対策事業(南田町内越久保)(馬場遺跡)
		3-43	曹徳丘陵公園(防災公園)整備事業
		3-44	鏡子塚古墳跡地民家建設事業

2 整理作業

2013年度の整理作業は、以下のとおりである。

1) 基礎的整理作業

番号	調査名	番号	調査名
1	平林遺跡(中部横断道路関連調査)	5	上コブク遺跡D区(西側東自動車道関連調査)
2	県庁機内貯蔵場(県庁耐震化改修関連調査)	6	本城山遺跡(中部横断道路関連調査)
3	委員会室(第1・2次)(県庁耐震化改修関連調査)	7	勝峰遺跡C区(西側東自動車道関連調査)
4	勝峰公園整備事業石垣補修工事(平成24・25年度)		

2) 本格的整理作業

番号	調査名	番号	調査名
1	勝峰遺跡D区(西側東自動車道関連調査)	3	甲府駅南1周辺移設事業(エクスラン駐車場前)
2	三ノ側遺跡	4	滝沢遺跡(吉田河川埋バイパス関連事業)

3) 報告書刊行一覧

番号	調査名	番号	調査名
第295集	甲府城跡-巻戻曲輪地帯一	第298集	鎌田川旧地誌
第296集	上コブク遺跡	第299集	県指定史跡甲府城跡(平成24・25年度調査・整備報告書)
第297集	山梨県内分布調査報告書(平成25年1月～12月)		

3 資料普及事業

2013年度（平成25年度）に実施した事業は、県内の小・中学校等へ出向き土器づくりや火起こし体験などについて支援を行う「出前支援事業」、発掘調査現場で実際に発掘を体験する「発掘体験セミナー」などを行った。その他、講座・講演会等への講師派遣、学校の教職員を対象に埋蔵文化財を活用した学習を授業に積極的に取り入れる指導者の育成を目的とした「山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修会」、一般の方を対象に遺跡現地説明会、山梨県考古学協会との共催による遺跡調査発表会なども実施した。

県民の日に先立ち11月17日は、県史跡甲府城跡の鉄門と本丸を会場に年5回のイベントを実施し、県民の日の11月20日には考古博物館を会場に磨製石斧によるまき割り体験など考古博物館と共催でイベントを行った。これらの事業以外にも、遺物貸出キット・火起こし道具・映像ライブラリーなど考古資料の貸し出しも行った。

また、文化庁の史跡等及び埋蔵文化財活用事業による国庫補助金を受けて、古代の人たちの生活や知恵などを年4回の継続した活動を通して学ぶ「体験してみよう!! 古代の生活スタイル」を実施した。



体験してみよう!! 古代の生活スタイル
「秋の遺跡を歩こう」



出前支援事業「土器成形」



出前支援事業「遺物貸出キット」



発掘体験セミナー

普及事業集計表

件数	月日	学校への出版支援事業	人数	件数	月日	開催・講演	人数	件数	月日	遊園など出立・利用	人数	件数	月日	各種イベント・見学会	人数
1	4月27日	栄和中学製作	30	1	4月7日	甲州寺屋	42	1	4月12日	土曜日・土曜日・夜・夜出しキョウトNo.1貸し出し(山梨県立富士河口湖高校)	20	1	4月3日	甲府城	1422
2	4月30日	菅沼部小火起こし体験・遺物に集れ	46	2	5月25日	郡中(甲府城見学)	44	2	4月26日	炬火の体験貸し出し(甲斐市立電)	46	2	4月5日	開門イベント(4.5.4.14)	1976
3	5月8日	鳥居敷小火起こし・土曜や石原に集れ	37	3	6月16日	山の都ウォーク	30	3	5月5日	炬火の体験貸し出し(山梨県立甲府文芸高等学校)	10	3	4月7日	開門活用事業(呼び子童を伴う)	200
4	6月3日	田宮備小土曜作り	39	4	6月28日	富士河口湖高校	20	4	5月17日	貸し出しキョウトNo.1 炬火こし・道具貸し出し(山梨県立甲府文芸高等学校)	9	4	4月28日	武田城下町散策会	50
5	6月8日	栄和中学製作	37	5	7月28日	市川三郷町下区公民館	25	5	5月31日	土曜と週末(山梨県立甲府文芸高等学校)	39	5	7月7日	武田城下町散策会	40
6	6月17日	田宮備小土曜作り	29	6	8月1日	おまじし所長直講(甲斐の丸第一河内館と喜山出水)	80	6	6月7日	貸し出しキョウトNo.1No.2 炬火の出版物貸し出し(郡中(甲斐市立電))	138	6	7月21日	古代の生活スタイル 第1回	8
7	8月25日	石原西小火起こし体験・遺物に集れ	50	7	8月8日	山梨の考古学と歴史文化財活用研修	10	7	6月4日	炬火こし・道具貸し出し(山梨県立小)	9	7	8月4日	古代の生活スタイル 第2回	5
8	8月9日	南アルプス市立白根駅前小火起こし体験・遺物に集れ	32	8	8月16日	山梨の考古学と歴史文化財活用研修	7	8	7月15日	炬火こし・道具貸し出し(山梨県林業公社田代の社管理事務所)	33	8	8月10日	夏の甲府城門イベント	17
9	11月1日	北東小火起こし	3	9	8月16日	甲府教育協議会小学校社会科部会(郡中研修(甲府城))	26	9	7月25日	炬火こし・道具貸し出し(すみよし愛国館)	80	9	9月8日	武田城下町散策会	36
10	11月12日	水月東小火起こし	110	10	8月21日	県政出陣演説(春日丘)	20	10	8月1日	炬火こし・道具貸し出し(甲府商工会(諏訪))	60	10	10月6日	古代の生活スタイル 第3回	17
11	12月10日	中津備小土曜づくり	28	11	10月26日	上野原道徳調査発表会	100	11	8月16日	炬火こし・道具貸し出し(児童養護施設だまの学校)	20	11	10月27日	河口湖開港社開港を歩く	9
12	1月29日	中津備小土曜作り	28	12	11月21日	県政出陣演説(アミヤセ)	70	12	9月18日	炬火貸し出し(山梨県立博物館)	51	12	10月27日	県民体験セミナー	31
			13	13	3月15日	下野原道徳調査発表会	80	13	11月8日	炬火こし・道具貸し出し(東町こどもセンター)	15	13	11月9日	古代の生活スタイル 第4回	67
				14	12月4日			14	12月4日	貸し出しキョウトNo.1-No.5 (山梨県立身延高等学校)	35	14	11月17日	甲府城 秋祭り	360
				15	12月15日			15	12月15日	土曜点貸し出し(きくらげ保育園(保護者会))	90	15	11月20日	市民の日イベント	1921
				16	2月25日			16	2月25日	視察許可(公的)山梨文化財研究所	1	16	11月24日	武田城下町散策会	44
				17	3月13日			17	3月13日	貸出キョウトNo.1No.5 (吉田高等学校)	80	17	1月19日	開門冬のイベント	154
								18	1月25日	平林道徳 現地見学会		18	1月25日	平林道徳 現地見学会	40
								19	3月1日	寺古博 春まつり		19	3月1日	寺古博 春まつり	428
12			479				554	17			736	19			6515

件数集計 61 件

人数集計 8294人

4 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出許可一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名					
1	4.1～ 平成27.3.31	県立博物館	常設展示するため	重部原遺跡	縄文土器1点(十日町市博物館貸出)				
				原町農業高校前遺跡	縄文土器破片9箱				
				酒倉埴遺跡	石器52点				
				平林2号墳	鉄製品16点(県指定)				
				塩部遺跡	馬骨12点 人形2点				
				大御東丹保遺跡	銅代1点(県指定)				
				地耕前遺跡	青銅4点				
				瀬沢河原遺跡	陶磁器など197点				
				甲府城	金帯付鍔瓦葺元品				
				甲府城跡	輪宝はか10点(県指定)				
				2	4.1～ 平成26.3.31	南アルプス市教育委員会	ふるさと伝承館に常設展示するため	百々遺跡	土器はか21点
								藤原遺跡	土器はか119点
				3	4.1～ 平成26.3.31	北杜市教育委員会	北杜市考古資料館に常設展示するため	横針前久保遺跡	旧石器25点
天神遺跡	縄文土器2点								
柳坪遺跡	縄文土器1点								
寺所遺跡	縄文土器1点 土葬器9点								
城下遺跡	陶器2点 漆器等具2点								
天神C遺跡	土偶1点 石器37点 縄文土器9点								
東京遺跡	竪口3点 土葬器1点 石器1点								
4	4.1～ 平成26.3.31	山梨中銀資料館	常設展示するため					金の尾遺跡	弥生土器1点
								花鳥山遺跡	石器10点
5	4.1～ 平成26.3.31	北杜高校	教育活動で使用するため					原町農業高校前遺跡	縄文土器15点
								山梨平和ミュージアム	常設展示するため
6	4.1～ 平成26.3.31	山梨市フルーツパーク(株)	フルーツ公園内展示施設で展示するため					大御東丹保遺跡	クレス(弥生)
								大御東丹保遺跡	カヤ(弥生)
7	5.8～8.7	南アルプス市教育委員会	エントランス展示「フルーツ王国南アルプスのルーツ」に展示のため	大御東丹保遺跡	トオ実				
				大御東丹保遺跡	モモ種子(鎌倉)				
				大御東丹保遺跡	モモ核一式(弥生・中世)				
				大御東丹保遺跡	スモモ核一式(中世)				
				大御東丹保遺跡	ノブドク核一式(弥生)				
				二本柳遺跡	モモ核一式				
				宮沢中村遺跡	モモ核一式(江戸)				
8	9.6～26.3.31	山梨県立宝石美術専門学校	ジュエリーミュージアムで展示するため	宮沢中村遺跡	モモ核一式(中世)				
				東山北遺跡	水晶原石1点				
				甲ヶ原遺跡	水晶原石1点				
				大木戸遺跡	石鏡1点				
				美通遺跡	耳飾1点				
				大木戸遺跡	耳飾1点				
				塩瀬下原遺跡	漆器1点				
				須原遺跡	漆器1点				
				須原遺跡	大珠1点				
				金の尾遺跡	漆器1点				
				金の尾遺跡	管玉1点				
				東山北遺跡	勾玉1点				
				四ヶ塚古墳群	勾玉1点				
双葉2号墳	切子玉3点								
考古博物館構内古墳	勾玉・丸玉19点								
米倉山遺跡B遺跡	管玉2点								

9	9.9～11.22	十日町市博物館	秋季特別展「ビジュアル縄文博物館」に展示のため	重部原遺跡 宮の前遺跡 上野原遺跡 大木戸遺跡 大月遺跡	縄文土器1点 縄文土器1点 縄文土器1点 縄文土器1点 ヒスイ丸珠
10	7.20～9.2	県立博物館	企画展「山梨の近代人物と鉄道」で展示のため	藤沢河原遺跡 甲府城下町遺跡	汽車土器類38点 汽車土器類3点
11	7.13～12.17	野尻湖ナウマンゾウ博物館	特別展「散る旧石器・三万年前の石舟のひらがら」に展示のため	横村前久保遺跡	旧石器14点
12	7.13～8.26	釈迦堂遺跡博物館	企画展「生活道具の移り変わり」に展示のため	坂舟畑遺跡 駒舟遺跡 九鬼遺跡 米倉山田遺跡 大沼東丹保遺跡 甲府城下町遺跡 二之宮遺跡 姥塚遺跡	土師器1点 土師器1点 土師器1点 土師器2点 土師質土器1点 土師質土器6点 土師器10点 土師器1点
13	9.5～10.18	南アルプス市教育委員会	文化財教育普及事業で活用するため	百々遺跡	土師器1点 鉄製品一式 丸とも1点 結核準1点 安帯巻1点 土器類一括
14	9.19～11.12	船橋市史ノ台史跡公園博物館	企画展「縄文のふしぎ」に展示するため	原町農業高校前遺跡 海道前C遺跡 海道前C遺跡 海道前C遺跡 上の平遺跡 大木戸遺跡 上野原遺跡 海道前C遺跡 安達寺遺跡	人面装飾付土器2点 人面装飾付土器1点(県指定) 石押1点(県指定) 人面装飾1点 人面装飾1点 深鉢形土器1点 深鉢形土器1点 深鉢形土器1点 深鉢形土器1点
15	9.20～12.10	県立博物館	企画展「山梨の名室」に展示のため	一の沢遺跡	縄文土器7点(重文)
16	8.19～ 平成26年3.31	曾賀課	甲府城跡石組展示室に展示のため	甲府城跡	銅鉢6点
17	8.20～ 平成26年3.31	県立博物館	常設展「山梨の自然と人」に展示のため	原町農業高校前遺跡	縄文土器1点
18	8.10～11	山梨県立文化研究会	土器の実見および検討のため	音羽遺跡 上の平遺跡 十五所遺跡 金の尾遺跡	弥生土器2点 弥生土器2点 弥生土器3点 弥生土器2点
19	10.17～ 平成26.1.17	船橋市史ノ台史跡公園博物館	企画展「縄文土器のふしぎ」に展示のため	原町農業高校前遺跡 海道前C遺跡 上の平遺跡 上野原遺跡 大木戸遺跡	縄文土器2点 縄文土器4点 縄文土器1点 縄文土器1点 縄文土器1点
20	12.1～ 平成26.3.31	県立博物館	企画展「縄文王國山梨」に展示のため	安達寺遺跡 安達寺遺跡	縄文土器1点 縄文土器破片一括
21	平成26.3.21～ 6.13	釈迦堂遺跡博物館	企画展「甲府盆地東部の古墳」に展示のため	甲斐鏡子塚古墳	埴形木製品1点 円盤形木製品1点 鏡形木製品1点 円盤・鏡手・棒状木製品 復元品1点
22	平成26.3.28～ 平成27.3.28	大月市教育委員会	縄土資料館常設展示室に展示のため	塩瀬下原遺跡 大月遺跡	土器1点 石罨6点 縄文土器2点 石罨1点 縄文土器5点

写真資料貸出並びに掲載許可一覧

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
1	3月29日	(株)新泉社	シリーズ「遺跡を学ぶ」に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳	空撮写真1点
2	3月28日	(株)アッシュ	「楽しい縄文」入門」(仮)に掲載のため	一の沢遺跡	深鉢形土器1点
				安道寺遺跡	深鉢形土器1点
				複製品	木製の突った土器1点
3	4月4日	(株)旺文社	「2014受験用 全国高校入試問題正解 社会」に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳	空撮写真1点
4	4月5日	(有)スタジオオパラム	「関東・甲信越 古代遺跡ガイド」に掲載のため掲載のため	甲斐鏡子塚古墳附丸山古墳	遺跡全景など4点
				上の平遺跡	遺跡全景など5点
				結塚古墳	遺跡全景など2点
				加牟那塚古墳	遺跡全景など3点
				姥塚古墳	遺跡全景など3点
5	4月10日	(株)ブランドフィット	通信教育教材「公立高校入試問題」山梨県版	甲斐鏡子塚古墳	空撮写真1点
6	4月11日	御書水社	週刊「日本の歴史」第30号掲載のため	甲府城跡	空撮写真1点
7	4月12日	(株)ベネッセコーポレーション	広報誌コラム「ふるさとの誇り」	宮沢中村遺跡	調査状況1点
				大御東丹保遺跡	漆器出土状況1点
				副代出土状況1点	副代出土状況1点
				田田遺跡	整骨出土状況1点
				向河原遺跡	水田検出状況1点
				二本柳遺跡	調査状況1点
					土層横断状況1点
8	4月24日	朝顔舎	「平成26年度高校入試対策 山梨県公立高校入試問題」に転用掲載のため	甲斐鏡子塚古墳	空撮写真1点
9	4月23日	朝山梨ふるさと文庫	「もっと教えて姓名先生」に掲載のため	海道前C遺跡	人面装飾土器1点
10	4月24日	朝日島書店	「新評日本史」に掲載のため	甲ヶ原遺跡	石皿と磨石1点
11	4月24日	御平凡社	別冊太陽「楽しい縄文の世界」に掲載のため	花鳥山遺跡	浅鉢形土器1点
				天神遺跡	深鉢形土器1点
				一の沢遺跡	深鉢形土器2点
				原町農業高校前遺跡	深鉢形土器1点
				安道寺遺跡	深鉢形土器1点
				宮の前遺跡	深鉢形土器1点
12	5月10日	朝プラネットライツ	総合情報誌「男の隠れ家」に掲載のため	甲府城跡	戰鬥関連写真10点
13	5月21日	朝山川出版	「ビジュアル版日本史図録」に掲載のため	天神遺跡	大塚1点
14	6月4日	朝中経出版	新人物文庫「風土記 謎解き散歩」	鏡子塚古墳	装伏木製品1点 空撮写真1点
15	6月7日	御平凡社	別冊太陽「楽しい縄文の世界」に掲載のため	甲ヶ原遺跡	磨盤3点
16	6月12日	朝版急コミュニケーションズ	pen No.341 「日本美術をめぐる旅へ」に掲載のため	天神遺跡	深鉢形土器1点
17	6月22日	青人社	PIE BOOKS 「日本の文庫事典」に掲載のため	甲ヶ原遺跡	出土物15点
16	9月6日	(株)新泉社	「縄文土器ガイドブック」に掲載のため	花鳥山遺跡	深鉢形土器1点
17	6月25日	十日町市博物館	秋季特別展「ビジュアル縄文博物館」展示パネルに掲載のため	原林遺跡	深鉢形土器1点
				安道寺遺跡	深鉢形土器2点
18	6月25日	桑島 雄	個展および出版物に掲載のため	一の沢遺跡	深鉢形土器2点 土鍋3点
				安道寺遺跡	土鍋8点
				酒呑場遺跡	土鍋3点
				桂野遺跡	土鍋1点
				岡道遺跡	土鍋2点
				大御東丹保遺跡	スキモ模1点
19	7月16日	巨摩野農業協同組合	「全国スキモナミットin南アルプス市」大会冊子に掲載のため	大御東丹保遺跡	スキモ模1点
20	7月30日	御字研パブリッシング	「よみがえる縄文の女神」に掲載のため	一の沢遺跡	深鉢形土器1点
21	8月12日	御字び舎	史料省検定教科書「ともに学ぶ人間の歴史」に掲載のため	酒呑場遺跡	磨製石斧1点
22	8月16日	栃木県立博物館	第107回企画展「養生人の祈り-東国の再葬墓-」図録等に掲載のため	岡道遺跡	土鍋2点
23	8月23日	朝山川出版	「ビジュアル版日本史図録」(仮称)に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳	空撮写真1点
24	8月28日	奈良国立歴史民俗学研究所	秋季特別展「美酒発掘」図録等に掲載のため	安道寺遺跡	有九脚付土器1点
25	8月23日	南アルプス市教育委員会	文化財教育普及活用で使用するため	百ヶ遺跡	調査風景等20点

26	9月11日	柏根市農ノ台史跡公園博物館	企画展「縄文のよしぎ」印刷物等で使用するため	原町農業高校前遺跡	人面装飾付土器2点
				海道前C遺跡	人面装飾付土器1点(県指定)
				海道前C遺跡	石棒1点(県指定)
				海道前C遺跡	人面装飾1点
				上の平遺跡	人面装飾1点
				大木戸遺跡	深鉢形土器1点
				上野原遺跡	深鉢形土器1点
				海道前C遺跡	深鉢形土器1点
				安道寺遺跡	深鉢形土器1点
				27	9月24日
28	9月20日	朝日ミエール	観光アピール用に展示掲載のため	安道寺遺跡	有孔罎付土器1点
				一の沢遺跡	浅鉢形土器1点
				宮の前遺跡	深鉢形土器1点
				酒呑場遺跡	深鉢形土器3点
				上野原遺跡	深鉢形土器1点
				船林遺跡	深鉢形土器1点
				天神遺跡	深鉢形土器1点
				29	9月27日
30	10月10日	朝サンニキ印刷	フォーラム等のイベント画像として使用するため	酒呑場遺跡	深鉢形土器3点
31	11月18日	朝新章社	『ここまでわかった！縄文人の植物利用』に掲載するため	酒呑場遺跡	大豆圧痕土器1点
32	11月27日	朝新章社	『日本の城』第57号「甲府城の歴史」に掲載のため	甲府城跡	亀瓦など4点
33	12月6日	共同通信社大坂支社	『まとの日本史 年』に掲載のため	塩部遺跡	馬歯出土状況1点
34	12月19日	ジューグレイブ園	「らしもの探鑑 縄文生活のすすめ」	上コブク遺跡	動物形土器1点
				安道寺遺跡	有孔罎付土器1点
				酒呑場遺跡	土鈴3点
				上の平遺跡	土鍋1点
				塩部遺跡	馬歯1点
35	12月17日	県立博物館	山梨日日新聞社こどもウィークリーに掲載のため	塩部遺跡	馬歯1点
36	1月9日	朝新章社	『日本の城』第57巻に掲載のため	甲府城	復元模型1点
37	1月14日	高千穂園	『TEIKOKU NEWS 九州版』に掲載のため	天神遺跡	大埴1点
38	1月16日	朝オフィス三統士	『古墳で見る古代史』(仮題)	甲斐鏡子塚古墳	空輪写真1点
39	1月17日	小林武人	『ART of JOMON in AOMORI』展に展示するため	一の沢遺跡	深鉢形土器3点
				海道前C遺跡	深鉢形土器3点
				甲ッ原遺跡	深鉢形土器2点
				前沢遺跡	深鉢形土器1点
				原町農業高校前遺跡	深鉢形土器1点
40	3月10日	南アルプス市教育委員会	教育普及冊子「南アルプス市の甲斐源氏」	二本柳遺跡	調査風景2点
				宮沢中村遺跡	縄代1点
				百ヶ遺跡	土器はら5点

5 市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会

第26回目となる今年度は、普通救命講習Ⅰの受講を実施した。研修会では、発掘調査現場、整理作業、普及活動に係る参加者や関係者に事故等が生じた場合に、早急な対応できるような知識と技術を習得することを目的とした。これは、雇用主または主催者という管理責任の立場としての責務であり、安全で円滑な事業を進めるうえでも重要な知識であり事故等の抑止にも繋がると考えた。また、近年は野外だけでなく室内での熱中症、天候の激変に伴う自然災害なども日常的に注意が必要と考えた。



研修会は、甲府市消防本部職員を講師に迎え、平成26年3月6日（木）午後1時30分～4時40分より風土記の丘研修センター講堂で開催した。市町村埋蔵文化財担当職員等25名が参加し、全員に普通救命講習Ⅰ修了証を交付された。なお、講習内容については、発掘調査現場や整理室内で発生しやすい事故や怪我および危険回避の方法を講師に伝達し、より日常業務に役立つ研修内容となるよう工夫した。

6 遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県考古学協会と共催で、上半期と下半期の年2回開催している。県内の最新発掘情報を広く県民に発信する場であり、スライドなどを使用したわかりやすい発表となっている。また、出土品や写真パネルのミニ展示も併設している。

○2013年度上半期遺跡調査発表会【参加者約80名】

開催日時：2013年10月26日（土） 午後1時30分～4時40分

開催場所：風土記の丘研修センター 講堂

発表 1 富士河口湖町：鯉ノ水遺跡（発表者 富士河口湖町教育委員会 杉本悠樹）

古代東海道甲斐路と思われる道路遺構が県内で初めて発見されたほか、河口湖における水辺の祭祀にかかわると思われる古墳時代の遺物集中地点が見つかった。

発表 2 甲州市：五反田遺跡（発表者 公益財団法人山梨文化財研究所 榑原功一）

古墳時代前期～平安時代末の堅穴住居77軒、ビット264基、土坑7基、溝12条、掘立柱建物跡2棟、自然河道1条が発見された。

発表 3 笛吹市：大祥寺遺跡（発表者 公益財団法人山梨文化財研究所 望月秀和）

甲斐国志に記載のある吉国山竜華院の前身寺院である前附山大祥寺の遺構地の調査。建物跡2棟、地下式坑2基のほか、1,324点の経石が発見された。

発表 4 甲府市：甲府城下町遺跡（発表者 甲府市教育委員会 鷹野義朗）

江戸時代の土蔵跡、鍛冶遺構のほか、江戸時代中期から明治時代初期までの旅館に関する遺構が発見された。

発表 5 富士吉田市：吉田口登山道（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 村石眞澄）

平成20年～24年の期間に行われた、富士山信仰に関わる宗教施設や遺構に関する学術調査の報告。平成24年度には、東日本大震災にて被災した石碑等の復旧も行われた。

○2013年度下半期遺跡調査発表会【参加者約100名】

開催日時：2014年3月15日 午後1時00分～4時30分

開催場所：山梨文化財研究所 大ホール

発表 1 身延町：平林遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 正木季洋）

縄文時代前期後半～中期初頭の竪穴状遺構を4基のほか、集石土坑や配石遺構、焼土遺構などが発見された。縄文時代のキャンプサイトの可能性がある。

発表 2 北杜市：上原遺跡（発表者 NPO法人茅ヶ岳歴史文化研究所 長谷川哲也）

縄文時代の竪穴住居が24軒、平安時代の竪穴住居が63軒発見された。平安時代の住居からは、馬具が出土した。

発表 3 笛吹市：前付遺跡（発表者 公益財団法人山梨文化財研究所 望月秀和）

縄文時代～平安時代の竪穴建物跡が32軒、掘立柱建物跡が3棟発見された。砂が充てんされた縄文土器や、古墳時代のオニギリ状炭化米、奈良時代の瓦塔などの発見があった。

発表 4 富士河口湖町：滝沢遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 御山亮清）

奈良時代～平安時代の竪穴建物跡7軒、古墳時代前期の土器集中区などが発見された。墨書土器や刻書土器、転用硯などの古代官道沿いの集落の性格を考える資料が出土した。

発表 5 韮崎市：願成寺境内遺跡（発表者 韮崎市教育委員会 関俊俊明）

甲斐武田家の始祖である武田信義の菩提寺である願成寺の調査。本堂の礎石の下には、法華経を写経した経石が埋納されていた。

7 山梨の遺跡展2014

2013年度中に県内で実施された発掘調査・普及活動などの成果を展示した。「山梨の遺跡展」は埋蔵文化財に対する理解と、郷土への歴史的認識を深めてもらう場として毎年開催しており今年で26回目となる。2014年3月8日～4月6日まで、県立考古博物館企画展示室で展示した。

当センターが行った中部横断道建設に伴う縄文時代前期後半～中期初頭の平林遺跡、吉田・河口湖バイパス建設に伴う奈良～平安時代の滝沢遺跡、西関東自動車道建設に伴う縄文時代前期～中期、平安時代末の膳棚遺跡E区、甲府駅南口修景計画に伴う甲府城下町遺跡、県指定史跡甲府城跡石垣整備事業に伴う調査、鎌田川河川改修事業に伴う近世の鎌田川旧堤防の写真や出土遺物をそれぞれ展示した。「県内分布調査」や「出前授業」・「鉄門イベント」・「古代の生活スタイル」などの埋文活用事業、当センターが職員を派遣している東日本大震災の復旧・復興のための発掘調査の様子（宮城県南三陸町：新井田館跡（中世の山城））を紹介した。

その他市町教育委員会の協力により、7市町が調査した10遺跡を紹介した。笛吹市の前付遺跡は縄文時代・古墳時代・古代の複合遺跡で、縄文時代の土器製作に関連する遺物や県内5例目となる古代の瓦塔などを展示した。同じく笛吹市の大祥寺遺跡は、建物跡や多字一石経の埋納土坑などの遺構写真、経石や中世の陶磁器などを展示した。甲州市の熊野八反田遺跡は古墳時代前期集落跡で、住居跡の写真や古墳時代の土器を展示した。同じく甲州市の小山平南遺跡は縄文時代中期・平安時代の集落跡で、住居跡の写真や縄文土器・土偶・墨書土器を展示した。北杜市の上原遺跡は縄文時代・平安時代の集落跡で、県内で初めて出土した轡（馬具）などを展示した。韮崎市の願成寺境内遺跡は元禄年間に建てられた寺院で、建物の礎石列や礎石下から検出された経石を埋納した土坑の写真、碗や古銭・経石などを展示した。富士河口湖町の鯉ノ水遺跡は古代官道「甲斐路」が検出され、出土した遺物や写真と共に官道の剥き取りも展示した。甲府市の甲府城下町遺跡（中央四丁目地点）は江戸時代初期から明治時代まで連続と続く城下町遺跡で、炉跡の写真や土馬などを展示した。南アルプス市の御勅使川堤防址群：枳形堤防は、

御勤使川を暗渠で横断している徳島堰から旧六科村へ分水する水門を守る石積みの堤防で、根固めの様相の写真などを展示した。同じく南アルプス市の前御勤使川堤防址群：お熊野堤は前御勤使川を守る堤防跡で、堤防のかさ上げの様相や蛇籠などの検出状況を展示した。

さらに今年度は国指定史跡の葦崎市の新府城跡、甲府市の武田氏館跡、南アルプス市の御勤使川旧堤防と、今年度新たに国史跡となった甲府市の大丸山古墳、北杜市の梅之木遺跡を紹介した。

8 広報誌埋文やまなし

◆45号

本号は、「特集!! 鉄門!!」と題し、県指定史跡甲府城跡に平成25年1月10日に復元整備されてから一周年を迎えた鉄門に焦点を当てた特集号とした。

鉄門とはどのような門なのか広く知っていただく機会となるよう、鉄門の歴史や甲府城跡に復元整備された根拠の他、普及事業の一環として鉄門で行われたイベントの様子を紹介し、多くの人に甲府城へ足を運んでいただく動機付けとなるような内容とした。

9 県指定史跡甲府城跡活用事業

県指定史跡甲府城跡（舞鶴城公園）は、平成2年から県土整備部主導で舞鶴城公園整備事業に着手し、文化財の保護と安全性の向上等を目的として城内の整備を実施してきた。平成16年に稲荷櫓、平成25年1月に鉄門が復元整備され公開されている。これらを拠点として、地域活性化や甲府城跡の歴史的風格を高めることを目的として、年間を通し様々な活用事業を実施している。また県土整備部、観光部とも連携し活用事業を行うことで、史跡の利活用のあり方を多角的に検討し、郷土学習の場として次世代に繋げるよう努めている。

・信玄公祭り関連「甲府城特別展」

平成16年度に甲府城跡稲荷櫓が復元公開されたことを機に、これまで春の観光シーズンを中心に9回の甲府城発掘展を開催してきた。本年度は、4月5日（金）～4月14日（日）まで、舞鶴城公園（甲府城跡）稲荷櫓にて「発掘された甲府の城下町～武田氏館と城下町～」展を開催した。展示では、戦国武田三代（信虎・信玄・勝頼）の館であった国指定史跡武田氏館跡（武田神社）とその周辺に焦点を当て、戦国城下町の様子を紹介した。開催期間中には、約1400名の来場があった。



・信玄公祭り関連「鉄門解説」

4月5日～4月14日の期間に信玄公祭りに関連して職員による鉄門の解説を行った。二階の櫓への入場者は、4月5日（金）146人、6日（土）450人、7日（日）560人、8日（月）58人、9日（火）84人、10日（水）121人、11日（木）86人、12日（金）92人、13日（土）156人、14日（日）223人、合計1976人であった。

・鉄門活用事業

・鉄門「呼び子笛を作ろう！」

平成24年4月7日（日）に鉄門二階の櫓にて、篠竹を材料にナイフやノコギリを使って呼び子笛を作る体験イベントを行った。多くの子どもたちはナイフやノコギリなど普段使わない道具を使い、ただの

竹から笛を作るという経験ができたと言っていた。参加者約200人。

・「夏の甲府城鉄門イベント」

平成25年8月10日(土)に鉄門二階の櫓にて、プラ板ストラップ、オリジナルのペーパークラフトづくり、石落とし体験、甲府城〇×クイズなどの体験イベントを行った。プラ板ストラップは、甲府城関連の家紋瓦などのイラストをプラ板に写し、オープントスターで熱した後、ひもを通しビーズをつけストラップにした。ペーパークラフトは、甲府城で出土した軒丸瓦の拓本をモチーフとしたもの、鯺瓦は立体的にデザインのもの。石落としは、通常は閉じてある石落としの扉を開いて、上から櫓の下へ、紙製の石を投げ落とすものである。甲府城〇×クイズは、甲府城に関する問題とし、正解者には得点券を配布した。40℃を超える猛暑日であったため、参加者は17名と少なかった。

・「甲府城秋まつり～江戸時代体験」

平成25年11月17日に、鉄門を中心とする本丸曲輪周辺でクイズラリー、ムクロジしゃぼん玉づくり、稲こき体験、きなこ・抹茶づくり体験、組み紐ストラップづくり、石落としゲーム、ペーパークラフトづくりなどの体験イベントを行った。クイズラリーは、本丸曲輪に設置したブースで甲府城の歴史・構造などに関するクイズ(1～3級)を配布。参加者は城内の看板等をめぐりながら解答し、本丸曲輪のブースに戻り、解説解答を見ながら答え合わせをする方法で実施した。ムクロジしゃぼん玉づくりは、紙コップにムクロジの実とお湯を入れ、ストローを用いて江戸時代風のしゃぼん玉づくりを体験した。稲こき体験は、埋蔵文化財センター峡北収蔵庫で栽培した古代米の稲穂を割り箸を使用して脱穀した。きなこづくり体験は、石臼で炒った大豆と茶葉を挽き、きなこ抹茶を作った。組み紐ストラップづくりは、7本の刺繍糸を束ねてストラップを作成した。石落としゲームは、鉄門二階の櫓の石落とし扉を開き、紙製の石を投げ落とす体験を行った。ペーパークラフトづくりは、甲府城のオリジナル鯺瓦・軒丸瓦のペーパークラフトを作成した。参加者は163名。

・「冬の鉄門イベント」

平成26年1月19日(日)に、弓矢体験、鉄門から石落とし、紋切りでしおりづくり、もちあられの試食などの体験イベントを行った。扇を射る！弓矢体験は、鉄門下の石垣周辺で的をめかけて矢を放つ体験を行った。鉄門から石落とし的当て！は、鉄門二階の櫓の石落とし扉を開き、下の的(鯺・寛永通宝・輪宝にあてる)を狙って紙製の石を投げ落とす体験を行った。紋切りでしおりを作ろうは、折り紙を切り抜いて紋切り(双瓢・日向瓜形光琳梅・六ツ鱗の中から1つ)をして、パウチでしおりをつくった。江戸っ子も食べていた！もちあられの試食は、江戸時代に多く生産されるようになった米菓子のひとつであるもちあられを袋詰めしたものを配布した。参加者154人。

・視察、見学会

見学会は、甲府城跡の歴史を中心に整備と活用事業の主旨を解説し、史跡整備への理解促進に繋げた。

10 遺跡データ管理 (GIS)

2014年度の遺跡管理システム (Geographic Information System) に登録した遺跡の発見や範囲の変更については6件であった。内訳は、遺跡の発見 (6. 大月市花咲 堂地遺跡) 1件と遺跡範囲の変更修正 (1. 甲府市千塚 榎田遺跡、2. 甲州市塩山 熊野八反田遺跡、3. 山梨市江曾原・堀内 江曾原遺跡、4. 甲府市川田 桜井畑遺跡、5. 山梨市小原西 寺の下遺跡) 5件である。

11 報告書PDF化 (遺跡資料リポジトリ)

平成24年11月30日に山梨県教育委員会と国立大学法人信州大学附属図書館が協定を結び、「山梨県遺跡

資料リポジトリ」が正式に公開された。遺跡資料リポジトリとは、考古・歴史分野の基本資料である遺跡調査報告書の電子化を進めるとともに、リポジトリ（倉庫）システムを構築することで、当該分野の調査・研究、教育活動の支援と、貴重な文化遺産の記録を広く一般に公開するための取り組みである。

平成25年度は、前年度に公開された報告書PDFの再検討を行い、絵図、写真についてPDFの網掛け作業を行った。2014年3月現在、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第1集から287集までの再点検および網掛けが完了し、山梨県遺跡資料リポジトリへPDFデータを提供してある。

12 埋蔵文化財センター峡北収蔵庫遺跡まなび館

山梨県埋蔵文化財センターでは、甲府市内にあった考古資料収蔵施設の廃止に伴い、平成23年度から北杜市にある旧峡北高等学校校舎にこれらの資料を搬入し、平成24年度から峡北収蔵庫遺跡まなび館として考古資料の収蔵、再整理を行うとともに、収蔵された考古資料を活用した教育普及事業も行っている。今年度は、国庫補助事業を取り入れた体験事業、遺物台帳整備のほか、発掘調査報告書など図書の搬入整理を行った。

峡北収蔵庫遺跡まなび館を活用した体験事業は2回の開催となり、縄文土器作り・土器焼き、管玉づくり、火起こし体験、弓矢体験などを行った。参加者は8名であったが、一人一人にきめ細かな対応ができた。遺物の台帳作成整備では平成23年度搬入された遺物のうち、報告書掲載及び非掲載資料あわせて725箱の台帳整備を行った。発掘調査報告書など図書の搬入整理では、同一のもので複数送付されたもの、西日本を中心に利用頻度の少ない報告書を中心に11,704冊を搬入し各県ごとに整理収蔵した。

13 寄贈・購入図書

図書は、毎年度約3,000～4,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館等の企画展図録などである。その他にも業務に関する考古学や歴史学の専門書、学術雑誌を購入している。

2013年度（平成25年度）は3,139冊の図書を登録し、専門書・学術雑誌の購入は55冊である。総登録数約101,200冊に大塚文庫約11,000冊を加えると約112,200冊が収蔵されていることになる。

登録された図書データは、図書データベース（マイクロソフト社データベースアクセス）で管理し、蔵書の検索もできるようにしている。

年々増加していく図書であるが、収蔵スペースが不足し、2008年度（平成20年度）に書棚設置場所を設けて書棚6棚を増設し、2011年度（平成23年度）には5棚増設した。さらに、2013年度（平成25年度）には、使用頻度が低いと思われる図書の峡北収蔵庫遺跡まなび館への搬出を行ったが、既に限界に達している。依然として閲覧スペースを含めた収蔵スペースの確保・整備が大きな課題となっている。

第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

1 記録保存のための発掘調査

1-1 甲府城跡（委員会室棟 2次）

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
事業名 県庁舎耐震化等整備事業
調査期間 2014年2月24日～3月20日
調査面積 約160㎡
担当者 今福利恵・塩谷風季



甲府城跡（委員会室棟）位置図

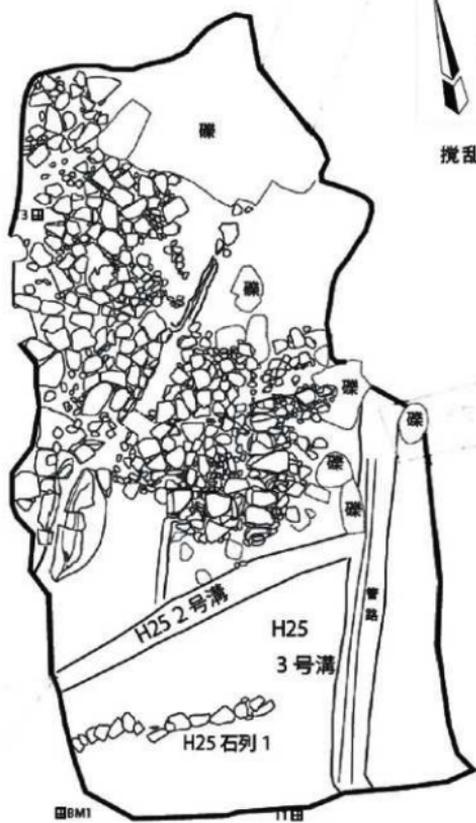
調査地点は県庁委員会室棟直下であり、昨年度の1次調査地点のすぐ北側となる。調査地点は甲府城楽屋曲輪東端に位置する。甲府城期においては楽屋曲輪の東端にあり、月見台地下の西側に該当する。江戸時代の絵図によると湯が湧いていたと想定される場所である。昭和6年に県庁舎が現在の場所に建設される前には、明治33年より甲府中学校が建設されており、本調査区は甲府中学校の敷地内とも重複する。

委員会室棟の解体に伴って基礎部分がほぼ削平されており、甲府城にかかる遺構は残っていないことを確認しており、立会調査の成果を踏まえて遺物包含層が残っている可能性のある土間状範囲を対象に約160㎡の調査を行った。2月12日に重機による表土剥ぎを実施し、同月13日より人力による掘り下げを開始した。作業により生じた排土は場内にて処理し、3月20日までに人力による掘り下げ作業を終了し、3月24日までに機材等を撤収して現場での作業を終了した。

地表面直下の表土は、近現代の陶磁器類やコンクリート塊がみられる黒色土層である。この表土を掘り下げると、遺物包含層の暗褐色砂質土であり、石敷き遺構の直上は黄色砂が約5cm堆積しており、調査区内ではピンク色の堅緻地盤が検出された。

調査の結果、1段の石積み列4列と石敷き遺構1基、石列による水路1列、溝状遺構2条、瓦溜まりを検出した。石積み列に囲まれたところで石が敷き詰められた石敷き遺構がでており、そこに南西側へ向かう石列の水路がつくられていた。石積み列には水平方向の黒色付着物がみられ、水路とあわせて水場に関する遺構と思われる。実際は周囲に広がっていたものと思われるが、旧委員会室棟により削平されていたため全体像は明らかでないが江戸時代の絵図との照合では湯が出る場所にほぼ一致し、温泉に関連する遺構の可能性もある。この遺構の取り扱いについては協議中であり、本年度は埋め戻しを実施せず次年度に調査を完了する予定である。また当概地からは瓦や陶磁器片を中心とした遺物が出土している。石敷き遺構は素材に円礫や角礫を用いているが、共通して平らな面が上になるように配されている。最大長約15mだが、前記したように、旧委員会室棟によって削平されているため一部が残存していたものである。石列の水路は全長約12mで北東から南西方向に平行して検出されているが、北東側は岩盤をV字状に掘り、中間部は2列の石列で水路をつくり、南西側は岩盤を利用して水路としている。覆土中からは近代の遺物は混入しておらず、帰属時代は甲府城期であると想定される。溝状遺構内には陶管とその直下から細い針金が巻かれた竹管（樋）が南北方向に検出されており、明治期以降に設置されたものであると想定される。

今回の発掘調査で出土した瓦は甲府城期のものを含むが、溝状遺構は甲府城期に構築されたものを再利用した可能性もある。出土遺物は瓦が大半を占め、その他陶磁器類などコンテナ収納箱25箱（推定重量約500kg）である。



攪乱

攪乱



遺跡全景 (北から)



石敷き遺構と石積み列と1号溝 (東から)



積み列2の水平に付着した黒色付着物 (北から)



1号溝の水平に付着した黒色付着物 (東から)

1-2 甲府城跡（県民会館駐車場）

所在地 甲府市丸の内一丁目地内（県民会館駐車場）
事業名 甲府駅南口地域修景計画事業（甲府城周辺再整備）
調査期間 2013年7月20日～29日
調査面積 50㎡
担当者 小林健二・長田隆志

本事業に伴う調査は、甲府城の堀跡などの地下遺構の残存状況を確認し、事業に必要なデータの収集と提示を行うことを目的に、2012年度に県民会館と隣接する立体駐車場の間の地点において、甲府城大手東側の内堀（一の堀）の残存状況の試掘確認調査を行った。

今年度は、昨年度に引き続き駐車場北東隅に調査区域を設定し、東端部で推定される堀の東側（外側）の立ち上がり状況、並びに堀底を確認するため調査を実施した。調査の方法は、東西10m、南北5mのトレンチを設定し、昨年度からの続きで④トレンチとした。そして、アスファルト舗装を撤去後、重機により掘削しながら遺構・遺物の確認を行った。

④トレンチは、まず東端から東西約5m×南北約2.5mの範囲で掘削を開始した。アスファルト舗装直下の碎石層（2層：厚さ約40cm）の下に、まず昭和30年代の舞鶴会館の建物基礎とその造成層（3層：厚さ約60cm）が確認された。この層の下には、砂礫を多量に含んだ堀の覆（埋）土層（5層：厚さ約1m）があり、さらにアスファルト舗装から約2mまで掘り下げたところ、シルト層（6層：厚さ約50cm）が確認されるとともに、北側の壁面から出水し始め、ポンプアップしながらの掘削となったが、途中出水が激しくなり、次第に壁面が崩落し始めたことから、地表下約2.5mのあたりで堀底（7層）を確認したところで、西側・南側・北側へは拡張せず④-1トレンチとし、東側の堀の立ち上がりの確認に努めた。そして、東側を部分的に拡張したところ、現側溝と緑色の境あたりの直下2m付近で杭列が確認された。確認できた範囲で長さ30～40cm、幅10cmほどの杭6本が、法面に沿って間隔をほとんど空けず打ち込まれており、横板は見られなかった。杭の下端は出水により明確ではないが、土層断面から堀底ラインとおおむね一致することから、これらは堀の土坡面の裾部（法尻）に打設された護岸の杭列と考えられる。立ち上がりの高さまでは確認できず、断面の写真撮影と記録を行い、直ちに埋め戻したが、土層断面から3層と5層の間に立ち上がりのラインを推定することができる。

なお、1mほど置いて西側に東西1.5m×南北2mほどの範囲で掘削を行ったが（④-2トレンチ）、④-1トレンチに比べ出水は少なかったものの、堆積状況はほぼ同じであった。

出土品は、主に④-1トレンチにおいて、堀の埋土中より江戸末期～大正期にかけての陶磁器・瓦などが出土した。

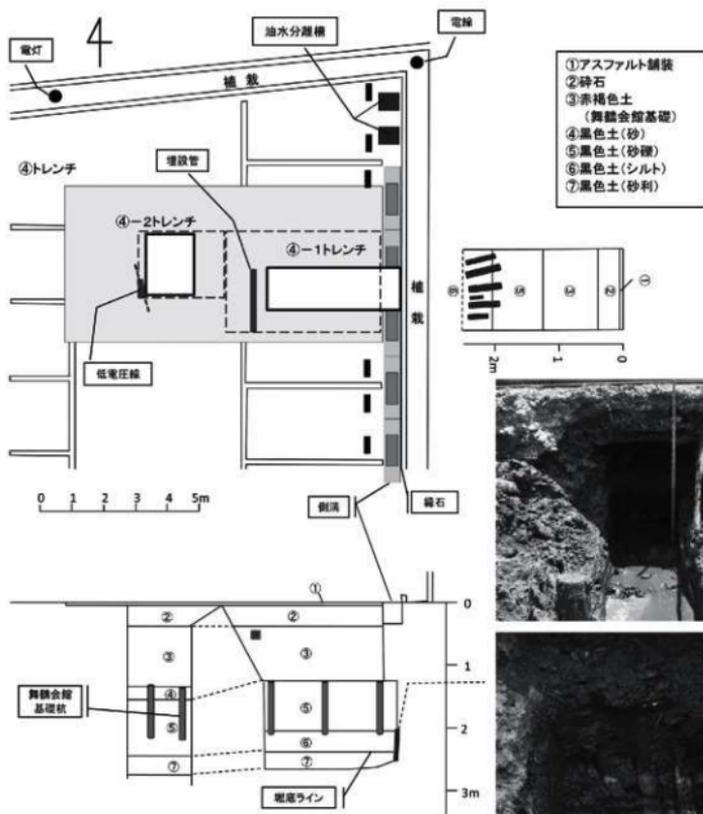
今回の調査により、甲府城内堀（一の堀）外側の立ち上がりが初めて確認された。土坡の立ち上がりの裾部に土留めの杭列を伴ったもので、このような類例は、やや状況は異なるが長野県松本城総堀跡の調査でも確認されている。今後、さらに類例の調査検討が必要であるが、いずれにしても、県民会館及び駐車場一帯の地下に堀が遺存していることが明らかとなったことは大きな成果であり、昨年度の調査成果とも併せ、既存建物の解体工事などへの対応及び将来的な保存活用を含めた取扱いを検討していく必要がある。



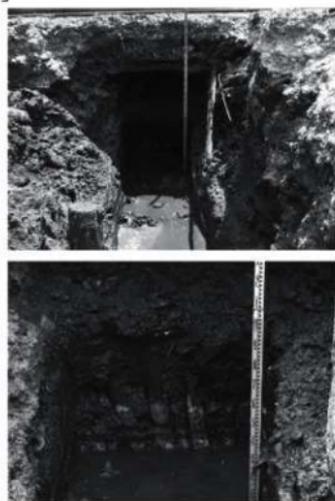
甲府城跡（県民会館）位置図



調査区域遠景



調査範囲と土層断面図



杭列確認状況(堀の立ち上がり部分)



調査風景



陶磁器出土状況

1-3 甲府城下町遺跡

こうふじょうかまらいせき

所在地 甲府市丸の内一丁目30-5 外
事業名 甲府駅南口周辺地域修景計画事業(駅前駐輪場整備)
調査期間 2013年11月13日～2014年3月17日
調査面積 2,014㎡
担当者 小林健二・永田亮一・御山亮済・長田隆志



甲府城下町遺跡 位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」の一部である本調査地点は、相川扇状地の扇端部に位置し、標高273mから274mを測る。甲府城内城の北西に隣接するこの区域は、1704年(宝永元)に甲府城主となった柳沢吉保の公用日記で

ある『楽只堂年録』第173巻所収の絵図に描かれた家老柳沢権太夫の屋敷跡の一部に該当する。また、西側に隣接する区域では、2002年度(平成14)に甲府駅周辺土地区画整理事業に伴い発掘調査が行われており、中世から近世・近代にかけての多数の遺構・遺物が確認されている。

今回の調査は、それまでであった送迎用駐車場・駐輪場を移転した後、調査区域の北側にある甲府駅ビル(エクラン)駐車場への進入路移設工事やトイレの解体工事などと並行して行われた。調査期間前半から中盤にかけてはエクラン駐車場への進入路を残しながらの調査となったため、工事工程に沿って全体をA～C区に分けるとともに、調査期間中の事務所プレハブ等の設置場所や、調査中の排土置場を調査区内で確保するため、各調査区内で反転しながら調査を行う必要があったことから、これらをさらにエリアI(A区①・A区②)、エリアII(B区①)、エリアIII(B区②+C区)の3エリア4工程に分けて調査を進めた。

発掘調査は、重機により舗装板の撤去及び表土剥ぎを行った後、人力による精査を行い、遺構・遺物を確認し、図面や写真の記録作業を行ったが、A区②とB区②並びにC区では湧水が激しく、常時ポンプアップしながら作業を進めた。

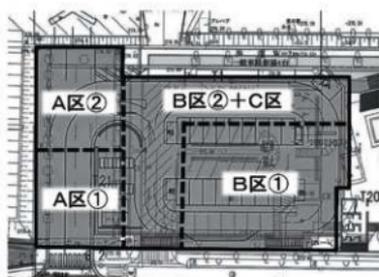
なお、2月8日と14日から15日にかけて2度の大雪に見舞われ、特に2月14日から15日にかけての大雪の影響により、当初計画の2月末での調査終了は困難となり、2週間調査期間が延長となった。

調査の結果、各調査区合計で建物跡4～5棟、石組み水路・溝2条、井戸2基、土坑約20基、ピット約30基、杭列、瓦溜り、集石などが発見されたが、コンクリートの基礎など、開発による攪乱部分も多く、トイレがあったB区①の東南端部分は、基礎が遺構確認面下まで及んでいた。出土した遺物には、江戸期の土器・陶磁器類や瓦、漆塗り椀や下駄・桶・などの木製品、銭貨や煙管・釘などの金属製品がある。時期的には遡る可能性のものもあるが、過去に周辺で行われた調査と比較すると出土量はやや少ない。

これらのうち、A区②で発見された建物跡は、一辺が70cm～1mほどの隅丸方形を基調とした柱穴6基が、東西方向に南北2列並んだ大型の掘立柱建物跡であり、その後B区②とC区にかけて南側の柱穴列の続きが確認され、最終的には17基となった。柱痕を伴ったものがあり、坑底に安山岩の割石や花崗岩などの石材を敷き詰め、さらに柱の周囲も多量の石材を充填し固定していた。石材の配置状況及び柱根の遺存状況から、7～8寸角ほどの柱が建てられていたと見られる。南側の柱穴列には、各柱穴の南側に接してやや小規模な柱穴が併っており、庇が付くような構造ではないかと考えられる。また、柱穴列がさらに北側(甲府駅側)の調査区外にも存在するかどうかは不明だが、柱の間隔は東西で2.2m、南北で1.8mほどあり、これらの配置から厩の可能性も指摘されている。

他の建物跡の柱穴は、小規模な円形・楕円形のものであるが、やはり柱痕を伴い石材を充填したものが見られた。A区②とB区①で発見された井戸はいずれも石組みで、瓦が廃棄されており、A区①で発見された瓦溜りには、輪違い瓦が多く含まれていた。B区①の長方形の土坑からは、土器・陶磁器や瓦、漆塗り椀など多くの遺物が出土した。

今回の調査において、いくつかの重要な成果があったが、特に大型建物跡の発見は、これまで行われた甲府城下町遺跡の調査では確認されなかったものである。これらの構造・配置や帰属時期、さらに柳沢権太夫屋敷跡との関係については、今後の整理作業で検討していきたい。



調査区域図



調査風景(B区①)



建物跡(A区②)



物跡柱穴と柱痕(A区②)



建物跡柱穴(A区②・C区)



石組み水路(A区①)



土器出土状況(B区①)

1-4 ぜんだないせき 膳棚遺跡E区

所在地 山梨市北733-2外
事業名 西関東連絡道路建設事業
調査期間 2013年4月1日～2014年3月31日
調査面積 約440㎡
担当者 田口明子・柴田亮平



膳棚遺跡E区 位置図

山梨市北地内にある標高477.6mの荒神山の裾部に位置する南向きの緩やかな斜面にある。本調査区は約378mの標高がある。

周辺には平安時代末の土師器を焼成した荒神山窯跡が存在する。

本調査区は、前年度に調査された膳棚遺跡D区に隣接している。

調査区は1・2区に分け、それぞれ重機により表土剥ぎを行った後、国土座標に基づく杭を5m方眼に打ち、測量の補助とした。その後人力による精査を行い、遺構や遺物を確認して図面や写真の記録作業を行った。整理事業は遺物の洗浄、注記、写真整理等などの基礎的整理と報告書作成のための本格的整理を行った。

1区では1～6号まで遺構番号を付けた。3号住居跡、1・2・4号竪穴状遺構は平安時代、6号土坑は縄文時代に属する。遺物は平安時代の土師器・須恵器等と縄文土器が出土した。

2区はほとんど現道路下部となるため大きくカクランを受け、遺構は確認されなかったが、縄文土器と平安時代土師器の破片が出土した。

今年度の調査ではD区で確認された平安時代の遺構が確認されただけでなく、その確認面より下層に縄文時代の遺物包含層と遺構が確認されたことが大きな成果である。遺跡は道路予定地のさらに南側に延びることが予想される。



1区 3号竪穴住居跡・4号竪穴状遺構



2区 全景

1-5 さんのがおいせき 三ノ側遺跡

所在地 都留市上谷5-7-1 (谷村工業高等学校)
調査期間 2013年6月13日~2014年3月20日
調査面積 2,870㎡
担当者 村石真澄・由井正昭・柴田亮平



三ノ側遺跡 位置図

桂川に沿って形成された谷底平野上に立地する三ノ側遺跡は、東西約900m南北約125mと大規模な遺跡である。昭和56年・平成13・14年に都留市教育委員会、平成23年に埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われ、皇朝十二銭の和同開赤や富寿神宝などが発見され古代甲斐国都留郡の中心的な村である「多良郷」と推定される集落跡を含むものである。

本遺跡内に所在する谷村工業高等学校敷地に興譲館高等学校を新設することとなり、平成24年度から試掘と仮設校舎建設に伴う立会調査を行い、本年度に校舎建物解体に伴う立会調査を経て第1期工事範囲の発掘調査を実施した。発掘調査は校舎解体工事と同時進行となったため、とくに安全性に配慮し作業を進め、校舎解体作業終了を待って南東方向から北西方向に向かって1区から4区の調査区を設定し発掘調査を行った。

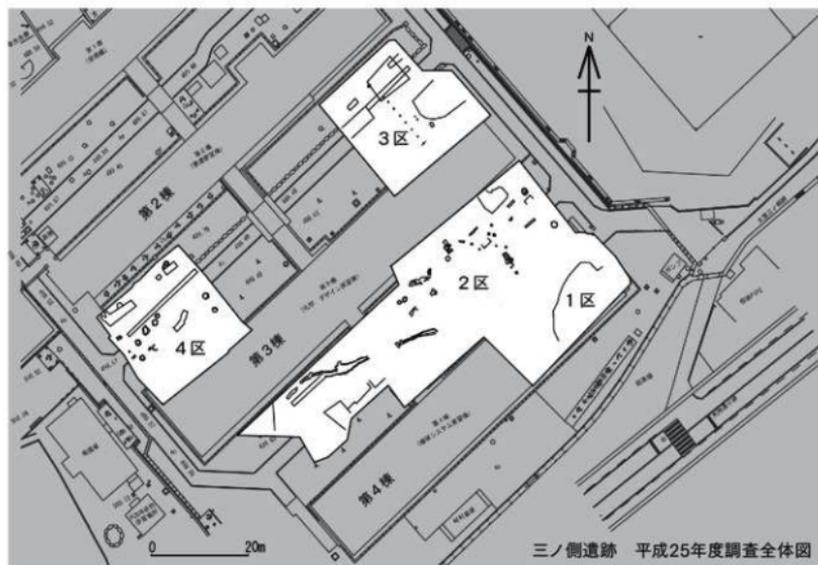
1区では、校舎第4棟基礎のために平安時代の遺構確認面・遺物包含層が攪乱されていたが安定した堆積層が基礎の下にも残存している部分があったので、縄文時代早期に当たる猿橋溶岩層(約8500年前)まで掘り下げて調査を行ったが、遺構や遺物を確認することができなかった。

2区は、校舎第3棟と第4棟との間の部分である。東側の部分では、この地域で平安時代の遺構確認の鍵となる堆積層である黄褐色土層が安定して連続せず、土坑の検出は少なかった。中央部分では黄褐色土層の遺構確認面が一部連続したが、溶岩が地表から浅い部分に広がる部分では黄褐色土層が突然に途切れるような状態であった。溶岩に接近した部分では、本来の地形は傾斜があり黄褐色土層も急傾斜となっていたが、後世の土地改変で平坦化されてこの黄褐色土層は削平されたものと考えられる。この黄褐色土層が途切れる範囲に平行して溝状の遺構を確認した。覆土はラミナが観察される粗砂~細砂を含み平安時代の土器破片が点々と出土した。覆土にはシルトや粘土は含まず、水が常時滞留するような状況ではなく、出水時に一時的に流れるような環境にあったものと想定される。この覆土に土器細片を含むことから、この周辺に平安時代の集落跡があったことが推定される。平安時代の溝と黄褐色土層の途切れる範囲にほぼ平行しており、谷村工業高校が開校する以前の明治時代の古い地割線とも一致している。土地の性質の違いが近代の地割にまで残されたものと考えられる。

3区は、校舎第1棟と第2棟の間の部分である。学校の造成整地層の下の水田耕作土層が厚く、近代から近世の安定した水田耕作土の下にも、擾乱を受けた水田耕作土と思われる堆積層があり、他で確認した黄褐色土層の平安時代の遺構確認がほとんど遺存していなかった。しかし、平安時代と思しき土器細片とウマ歯らしき獣歯の破片が出土していることから、平安時代の集落の周辺領域に含まれている可能性があり、整理作業での検討が必要である。

4区は、第1棟と第2棟の間の校舎基礎から外れた部分である。黄褐色土層の平安時代の遺構確認が安定して残存しており、掘立柱建物の可能性のある柱穴も確認した。

平成23年に発掘調査を行った隣接する山梨県立産業技術短期大学都留キャンパス敷地に比べると、今回の調査範囲では遺構が少なく、集落の縁辺ないし田畑などの生産域であった可能性が高い。計画の第2期工事の範囲内にも遺構群が伸びていると考えられるので、解体および建設工事との綿密な調整の上での発掘調査が必要である。



2区 溝の調査(南西から)



2区 溝(北東から)



4区 全景(北から)



4区 全景(北西から)

1-6 平林遺跡

所在地 南巨摩郡身延町和田字平林地内
事業名 中部横断自動車道(仮称)身延山IC建設事業
調査期間 2013年8月1日～2014年1月30日
調査面積 約7,909㎡
担当者 今福利恵・正木季洋・青木真一・塩谷風季



平林遺跡 位置図

平林遺跡は、平成25年3月に実施した試掘調査により、縄文時代の埋蔵文化財蔵地であることが確認され、同年4月から5月にかけて実施した国土交通省甲府河川国道事務所、山梨県土整備部道路整備課及び中部横断道推進事務所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センターによる協議により、記録保存調査を実施することとなった。

調査は8月1日より表土除去作業に着手し、8月19日より人力による掘削を開始した。調査の方法は工事着手優先範囲や発生土置き場等の関係から、調査対象範囲を4区(1～4区)に分け、それぞれ重機による表土除去(1・2区:8月1日～30日、3・4区:10月24日～11月20日)後、世界測地系座標に基づく5m間隔の基準杭とベンチマークの設置(1・2区:9月12日～18日、3・4区:11月26・27日)を行った上で、人力による掘削、精査を行いながら、光波測量による遺物の記録、取り上げ、土層の堆積を確認・記録し、各区の調査終了時にラジコンヘリコプターによる航空写真撮影を行い(1区:10月18日、2区:12月11日、3・4区:1月23日)、10月18日には1区を、1月30日には2～4区の調査を完了した。

調査の成果としては、縄文時代前期後半から中期初頭にかけての竪穴状遺構4基や土坑およびピット332基、集石土坑8基、焼土遺構10基、配石遺構1基などの遺構や縄文土器片や石器等の遺物を確認した。

住居と想定される竪穴状遺構は全て調査区の南側中央部に集中しているが、縄文時代前期後半(諸磯b式段階)に2基、前期末(十三菩提式段階)に1基、中期初頭(五領ヶ台2式段階)に1基と断続的に構築されている。また、土坑やピット、集石土坑などは調査区のほぼ全域で確認されている。

山梨県の同時期の集落跡では多くの住居が確認される大規模集落があるが、今回の平林遺跡の調査では、竪穴状遺構は全部で4基と少なく、時期も断続的であることから、移動と回帰を繰り返すキャンプサイトのような性格をもっていたと考えられる。

遺跡からは煮炊きに使用した縄文土器のほか、石鏝、石皿、装身具、有舌尖頭器などの石器がプラスチック収納箱にて18箱出土している。



平林遺跡 調査区全景 (モザイク写真)

有舌尖頭器



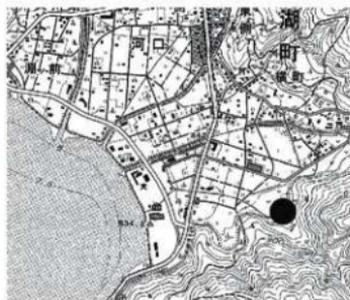
配石遺構 (東から)



3号竪穴状遺構 (西から)

1-7 たきざおいせき 滝沢遺跡（第4次）

所在地 南都留郡富士河口湖町河口字滝沢
事業名 吉田河口湖バイパス建設事業
調査期間 2013年9月3日～12月6日
調査面積 約1,328㎡
担当者 永田亮一・御山亮清



滝沢遺跡 調査区位置図

滝沢遺跡は富士河口湖町東部にある霜山の西麓に位置し、霜山が形成する谷合、標高約840～850mの微傾斜地に所在する。遺跡の所在する富士河口湖町河口地区には、東海道より分岐して甲斐国府へと通じる「甲斐路（御坂路）」と呼ばれる古代官道が通っていた。また、平安時代の法典である「延喜式」にも記される、古代駅伝馬制における駅の一つ「河口駅」の推定地でもある。滝沢遺跡の西側には、甲斐路と思われる道路遺構を検出した鯉ノ水遺跡が所在する。

滝沢遺跡は平成17年度に一般国道137号線吉田河口湖バイパスⅡ期工事に先立って第1次調査（Ⅰ～Ⅲ区）が、平成21年度に吉田河口湖バイパス建設に先立って第2次調査（Ⅳ～Ⅴ区）が実施されている。続くⅥ区の調査は平成23年度より2度に分けて実施することとなり、平成23年度分を第3次調査としてⅥa区、今年度分を第4次調査としてⅥb区の発掘調査を実施した。

調査区中央部において地表面下約80cmで奈良～平安時代の遺物を包含する黒色砂質土となる。その直下、黒色砂質土において遺構確認面となるが、遺構の認識が困難であるためさらに下層の暗褐色のローム層まで掘り下げて遺構確認を実施した。この面において、奈良～平安時代（8世紀後半～10世紀第2四半期）の竪穴建物跡7軒、古墳時代前期の土器集中区1ヶ所、中世以降の掘立柱建物跡2軒のほか、集石、焼土などを検出した。検出した遺構は調査区中央南側から北西隅にかけて集中し、調査区東側の密度は希薄である。また、調査区南西の一帯には洪水に由来すると思われる砂礫層が広がっていた。

竪穴建物跡05・07とした遺構は8世紀後半～9世紀初頭頃に帰属し、第3次調査において確認された最も古い段階の竪穴建物跡を引き続き検出した。滝沢遺跡における集落の形成に言及する手がかりとなろう。竪穴建物跡06は、床面直上においてほぼ全面に炭化材および焼土が散乱しており、出土した遺物も火を受けていたことから、焼失して廃絶したものと思われる。建物跡内では、完形の土師器環・皿が数多く出土しており、遺物量も多く、カマドもほとんど破壊されず遺存していたことから不意の火災によって焼失したものと推察される。

検出した竪穴建物跡からは土師器（甲斐型土器）や須恵器をはじめとする土器のほか、刀子や鉄鎌、紡錘車などの鉄製品、漁に使用する網に取り付ける土製の錘、砥石や叩き石などの石製品が出土した。土師器の中には墨で文字を書いた墨書土器や文字や記号を刻み込んだ刻書土器などがある。また、出土した須恵器・灰釉陶器には見込み部を転用して硯とした転用硯があり、観察すると朱墨を磨っていた痕跡がみられた。朱墨は寺院や荷物の検閲等に用いられることもあり、古代官道との関連が疑われる。

古墳時代前期の土器集中区では、S字状口縁台付甕や台付甕、小型鉢などが出土している。さらに、調査区南西隅に広がる砂礫層周辺においては、1個体の古墳時代の土器が固まって出土していた。

今回の調査では、これまでの調査と同様に古代における河口駅周辺地域の景観を考える手がかりを数多く発見した。特に滝沢遺跡では最古段階の竪穴建物の2例目の発見や、朱墨を磨った痕跡のみられる転用硯が2点発見されたことは、集落の性格を考えるうえで重要な資料となる。



滝沢遺跡から御坂峠を望む



竪穴建物跡 06 (焼失建物跡) 検出状況



土錘出土状況



竪穴建物跡 01 カマド周辺遺物出土状況



古墳時代土器一括出土状況

2 整備事業に伴う調査

2-1 県指定史跡甲府城跡

所在地	甲府市丸の内一丁目地内
事業名	舞鶴城公園石垣復元補修工事
調査期間	2013年4月1日～2014年3月31日
対象面積	433㎡
調査担当	宮里学・花形裕

県指定史跡甲府城跡はJR甲府駅に近接し、文禄慶長年間に築城された織豊城郭である。城内には天守台や本丸を始めとし、築城期の野面積みの石垣が良好に残り、県指定史跡となっている。

甲府城跡では、平成2年度から平成16年度まで県土整備部が舞鶴城公園整備事業として、変形や改変された石垣の修理等と、併せて鍛冶曲輪門、稲荷曲輪門、内松陰門、稲荷櫓の復元整備ならびに園路、広場、堀改修工事などを専門委員会の指導を受けながら実施した。

平成17年からは、未修理の野面積み石垣を対象に、強度や安全性(施工後の落下対策等)を協議しながら、詰石の除却、補充など石垣の維持と安全確保を目的とした石垣補修工事を実施している。本年度は鉄門復元事業を背景に、見学時の主要園路にあたり、かつ東日本大震災を受け変形の激しい本丸周辺石垣を施工対象とし、甲府城跡櫓門復元検討委員会石垣部会に所属していた学識者の指導を得て実施した。

事前調査と作業手順

実施した4地点の石垣は、1590年代(文禄・慶長年間)の甲府城築城期の構築である。石垣としては、横目地の連続しない、野面積み石垣で、石材は安山岩である。石材は、長軸平均12cmを測る四寸矢穴による粗割りが散見できるが、自然石が主体である。隅角部では稜線が作出されている事例も多く、築石部などでは縁辺部の調整加工が認められる。現況は、天端部2段程度は近代以降の改修または平成の修理事業が実施されている場合が多い。根石部は、本丸西面石垣を除き、安山岩の岩盤から構築されていることが確認できる。石垣の傷みでは、石材破損や内部の空洞化が目立ち、築石部も詰石の欠落や石材破損が多くみられるが、勾配などに大規模な変形はない。作業は、事前測量の後、仮設足場を設置し、番付、事前写真記録、石垣清掃、施行前調査、個別施工方法の検討、施工、施工後の確認、記録(施工地点ごとの個別カード)を教委監督員が常駐のうえ実施した。

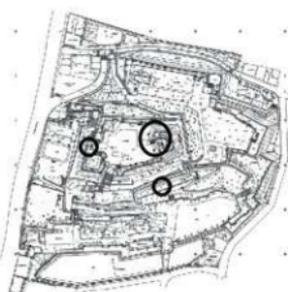
天守台西面の概要

本年度は、天守台西面(T-4、T-18他)、本丸西面(H-70)、天守曲輪南面(Tn-5)を施工した。本丸西面および天守曲輪南面は平成24年度に未施工となった範囲であるため、本稿では天守台西面(T-4)の概要を記す。

天守台西面の施工対象面積は279㎡で、詰石補充などの施工を実施したのは464地点である。調査成果から、石垣の上段から中段にかけて施工地点が多く、詰石の落下と石材の剥離が多かった。したがって、将来的に剥離や浮きの部分が落下しないよう除却が最も多い作業となった。

変形としては、北側隅角部の周辺の石材破損や変形が顕著であり、その原因と考えられる不安定な配石や縦目地に配慮した施工に努めた。また、部分的に平成5年の改修範囲が含まれ、多くの詰石に挙動(不安定な配石)が認められた。それらは経過20年を経て詰石がどの様な挙動を見せるのかを知る貴重な事例となった。挙動の原因は一概には言えないが、当時適切に叩き締めても、経年変化により詰石の控えが短い小形剥片から不安定になる可能性を現地協議で導いた。

この点は、詰石補修工事を実施するに当たり、極力控え長があり、重心を石尻側に持たせた施工をするという方針の有効性を証左するものでもあるが、いずれにせよ詰石の定期的な維持管理は文化財石垣にとって比較的安易にできる補修方法であり安全に文化財石垣を活用するうえでも重要なことと再認識する機会となった。



甲府城跡位置図



天守台西面（T-4）施工前



現地の仮設工事



石垣の清掃作業



課題地点の現地検討



施工作業



油圧ジャッキによる一時的補強



甲府城研究会、山梨伝統技術研究会合同勉強会



報告書刊行にむけての整理作業の様子

3 県内分布調査

3-1 中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡南部町富士字矢島5271外
調査期間 2013年6月17日、18日、24日～27日
調査面積 約185㎡（調査対象面積約4,890㎡）
担当者 正木季洋・青木真一

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、富士川左岸に広がる氾濫原にあり、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成25年5月16日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ2.4～24.3m、幅約1.0m、深さ約0.4～1.7mのトレンチ（試掘溝）を19箇所（1T～19T）設定し、重機及び人力掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、1～5・9・10・13Tと7・8・12・16・17Tの南側では地表下約30cm前後までは現代の水田の耕作土や床土が堆積し、その直下から氾濫による砂礫層が確認され、6・8・11・14・18・19Tと7・8・12・16・17Tの北側では地表下約5cm～80cmまでは水田耕作土や床土や埋土が堆積し、その直下から地山層（第5層～第8層）が確認された。

16・17T北側の水田床土層直下において溝と石列が確認した。溝中からは近世の陶磁器が出土しているが、水田床土層直下の近代の陶磁器を含む層上面より掘り込まれており、石列・溝は近代以降のものと考えられる。その他の地点に置いては遺構・遺物は確認されていない。

試掘調査の結果、16・17Tにおいて近代以降の石列・溝を確認したが山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項第3条により、保護措置の必要はないと考えられ、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



試掘調査 位置図

3-2 中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡南部町富士字平3289外地内
調査期間 2013年6月27日
調査面積 約29㎡（調査対象面積約963㎡）
担当者 正木季洋・青木真一

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、西側の山地から東流し富士川へ合流する沢の左岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成25年5月16日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、用地内に長さ約17.3m、幅約1～3m、深さ約1.0～1.3mのトレンチ（試掘溝）



試掘調査 位置図

を1箇所（1T）設定し、重機により掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。土層堆積状況は、地表下約60cm～70cmまでは造成盛土層・建物基礎取壊後の埋土（第1層～第4層）が堆積し、その直下から地山層（第5層）が確認された。また、湧水によるグライ化が第5層において確認された。

試掘調査の結果、遺物や遺構は全く確認できず、埋蔵文化財はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

3-3 中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所在地 身延町和田字平林568外地内
 調査期間 2013年7月2日～7月26日
 調査面積 約211㎡（対象面積約16,000㎡）
 担当者 正木季洋・青木真一



試掘調査 位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、平成24年度の試掘調査により発見された平林遺跡の隣接地にあり、東側の山地から西流し富士川へ合流する南北両端に位置する沢に挟まれた台地上に西向き緩傾斜面が広範囲に形成されていることから、埋蔵文化財の有無を把握するための試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、用地の取得された範囲内に長さ約2.0～10.0m、幅約1.0m、深さ約0.2～0.7mのトレンチ（試掘溝）を47箇所（1T～47T）設定し、人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。各トレンチの土層堆積状況は、基本的に第1層（表土層：黒褐色土・腐植土）、第2層（暗褐色土）、第3層（褐色土）が確認された。また、深堀をした1～3・5～7Tでは、第3層下に第4層（褐色土：礫を多量に含む）が、尾根状地形上に位置する4・23・24Tや畑地等利用のためと思われる削平を受けた26・27・47Tでは第1層下に第4層が、斜面上部や尾根上に位置する9・15・30・31Tや、沢状地形上に位置する21・22Tでは、第1～3層中に地山の礫が混じる堆積状況が確認された。

試掘調査の結果、8・45Tから平安時代に比定される土師器片2点と33Tから縄文時代に比定される土器片が出土した以外は、いずれのトレンチからも遺構は確認されなかった。以上のことから、今回の試掘調査地点においては、埋蔵文化財はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えないと認められるが、8・45T周辺範囲においては、遺跡の不時発見も想定されることから、工事掘削時に埋蔵文化財職員の立会が必要である。

3-4 中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所在地 南部町福士696
 調査期間 2013年8月5日～6日
 調査面積 64㎡（調査対象面積64㎡）
 担当者 村石眞澄・由井正昭



試掘調査 位置図

中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議により、工事施工前に試掘を実施する予定となっていたが、平成25度入り工事によって大規模に掘削されていることを現地を確認した。国土交通省の工事が7月末で一段

落したため、試掘を実施した。

試掘調査は、切り通し状に大きく深く掘削された部分を除き、地形に応じて5ヶ所にトレンチを設定し埋蔵文化財の確認を行なった。1・2トレンチは碎石を取り除くと、谷側は盛土で、山側は明黄褐色土の地山となっており、遺構や遺物包含層となる可能性がある堆積層は確認できなかった。3・4トレンチは地表層の笹根などが繁茂した層を取り除くと、明黄褐色土の地山となっており、遺構や遺物包含層となる可能性がある堆積層は確認できなかった。5トレンチは、碎石を取り除くと、明黄褐色土の地山となっており、遺構や遺物包含層となる可能性がある堆積層は確認できなかった。

今回の試掘調査では、遺構・遺物は確認できなかった。先年度からの協議により試掘調査の対象地になっていた範囲に対して、埋蔵文化財調査を行なう前に大規模に掘削されたことはまことに遺憾である。今後はこのような事態を招かないように、その原因を確認し、再発防止の措置をとる必要がある。

3-5 笛吹スマートインターチェンジ建設事業に伴う試掘調査

所在地 笛吹市八代町南地区
調査期間 2013年12月9日～12日
調査面積 約20㎡（対象面積約200㎡）
担当者 田口明子



試掘調査位置図

試掘対象地は、笛吹スマートインターチェンジ建設事業の一部であり、先行して工事に入る部分について協議に基づき試掘調査を実施した。なお、本事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である身洗沢遺跡があるため、来年度に本格的な試掘調査及びそれに基づいた発掘調査を行う予定である。

調査は西から1号～4号のトレンチを設定し、堆積層を確認しながら重機により掘削を行ないその後人力による精査を行った。1号トレンチでは遺構・遺物は確認されなかった。2号トレンチでは、表土（現耕作土）が約0.3m堆積し、摩耗した古代の土器器片1点が出土した。他に遺構・遺物は発見されなかった。3号トレンチは人為的な盛土が約1m堆積している。4号トレンチを設定した畑は東側の畑より約1m高く、西側の畑より約0.4m高い。1層は現耕作土を含む盛土で約2.4m堆積している。その下層は地山である砂礫層が確認された。3・4号トレンチからの出土遺物はなし。

以上のことから、今回の試掘調査対象地では発掘調査不要と考えられる。また2号トレンチと3号トレンチの間についても同様な地層の堆積が考えられるため、試掘調査も含めて不要と判断される。

3-6 国道20号（大月バイパス）建設事業に伴う試掘調査（堂地遺跡）

所在地 大月市花咲字堂地1271外
調査期間 2013年7月22日～25日
調査面積 62㎡（調査対象面積3,000㎡）
担当者 村石眞澄・由井正昭

大規模開発であるため国土交通省・学術文化財課・埋蔵文化財センターによる協議に基づき試掘調査を実施した。桂川の河岸段丘崖に面した地点に東から1～5トレンチを設定した。1・2トレンチの基本的な土層は、攪乱・盛土層の下に昭和30～40年代の宅地造成以前のふい黄褐色土の水田耕土が堆積

し、その下に遺物包含層である黒褐色土層が厚く堆積し、地山は黄褐色土層で構成されている。とくに注目されるのは、江戸時代後半～近代と思われる水田耕土は安定して広がっており、宅地造成の影響を大きく受けておらず、その下部にあたる黒褐色土の遺物包含層は層厚が1～2mを測り非常に遺存状態がよい。1トレンチの東端では部分的であるが、平面が60×100cm以上の規模をもつ掘り込まれた遺構を確認した。覆土には地山と類似した黄褐色土のブロックを含んでおり、単純な自然堆積での埋没ではなく、崩落や人為的に埋め戻されたやや特殊な遺構と思われる。確認した部分のごく一部であるがその性格を強いて想定すれば、獣を捕る落とし穴などが考えられる。これに伴う出土遺物は確認できなかった。2トレンチ東端では、下層の地山の黄褐色土層直上の黒褐色土層中からは縄文土器（中期中葉〔貉沢式〕）1片が出土した。また、2トレンチ中央部の北壁からは、打製石斧1点と縄文土器（前期後半〔諸磯式〕1、中期中葉〔貉沢式〕1）2点を確認した。3トレンチの土層堆積は、碎石、攪乱層の下が黒褐色土層、その下が地山の黄褐色土層となり、1・2トレンチに広がっていた水田耕土は確認できなかった。3トレンチは出土遺物はなし。4・5トレンチでは、褐色土や明黄褐色土の地山であり、灰白岩片を混入した褐色土層などがその上に堆積している。丘陵部で山側を削り込み、谷側に掘削土を盛って平坦面を作り出した造成が行なわれた土地である。4・5トレンチからの出土遺物はなし。この試掘調査により縄文時代の遺跡を発見し堂地遺跡と命名した。今回の試掘調査対象地では、1～3トレンチを中心とする部分については本発掘調査が必要である。4・5トレンチを設定した区画については調査不要と考えられる。



甲府城跡 位置図

3-7 国道411号拡幅事業に伴う試掘調査（勝沼地区）

所在地 甲州市勝沼町休息1551外
 調査期間 2013年5月27日～28日・6月12日
 調査面積 73㎡（調査対象面積800㎡）
 担当者 村石眞澄・由井正昭



試掘調査 位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地である大門後遺跡に近接することから試掘調査を実施した。試掘対象範囲は河川の影響下で形成された土地である。1・2トレンチは用地取得まで葡萄が棚で栽培されており、その下部では水田耕作土と酸化鉄の濃集する水田床土が確認でき、葡萄栽培以前には稲作が行なわれていたことが判る。水田面の下は円礫混じりの粗砂の河川堆積層である。日本料理店前の3トレンチでは、黒褐色砂質土中から平安時代の土器の小片3点が出土した。4・5トレンチでは、小円礫～大円礫を含む砂質土で構成されていた。6・7トレンチも小円礫～大円礫を含む砂質土で構成される。7トレンチでは縄文時代前期後半の諸磯式土器3点が出土した。遺物が出土したのはいずれも円礫混じりの砂質土層もしくはシルト質土層であり、この場所に集落が存在したというよりも、近隣の遺物包含層が河川作用により押し流されて再堆積したものと推定される。平安時代と縄文時代前期の土器片が少量出土しているが、いずれも河川堆積作用で形成された堆積層からの出土であり、近隣に遺跡が存在することは窺えるが、対象範囲には保護すべき遺跡は存在しないと判断される。

3-8 大坪遺跡

所在地 甲府市桜井町637-2
事業名 国道140号緊急道路整備修繕事業
調査期間 2013年8月5日～8月9日
調査面積 約9㎡(調査対象面積200㎡)
担当者 永田亮一・御山亮済



試掘調査 位置図

本事業は国道140号緊急道路整備修繕事業に係る、道路拡幅工事に伴う試掘調査である。調査地点は甲府市の東部、大蔵経寺山の西麓を流れる十郎川が大きく西へ屈曲する場所にある。当該地周辺はこれまでに発掘調査が実施されているが、計画路線区域内において、遺構・遺物の有無を把握するため、中北建設事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2013年7月3日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

調査区内には、一部水道管の埋設があったため、これを避けつつ南北方向に約7m、幅1mおよび東西方向に2m、幅1mのトレンチをそれぞれ1ヶ所設定し、重機による掘削のち人力による掘削をおこない遺構確認および土層観察を実施した。

調査の結果、調査区の北半部において、20cm角以上の割石を主体とするかく乱がみられたが、その直下でⅢ層(遺物包含層)が遺存していた。遺構確認面では土坑を1基確認した。以上のことから、試掘調査対象区域の一部にかく乱がみられるものの、遺物包含層までは達しておらず、平安時代の遺物包含層および文化層が大部分遺存していることが想定されるため発掘調査を実施する必要がある旨を報告した。

3-9 国道141号絵見堂交差点改良事業に伴う試掘調査(宮ノ前第4遺跡・宮木遺跡)

所在地 韮崎市藤井町絵見堂2717-外
調査期間 2013年9月18日・10月9日
調査面積 19㎡(調査対象面積126㎡)
担当者 村石眞澄・由井正昭



試掘調査 位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地である宮ノ前第4遺跡及び宮木遺跡の範囲内に該当するため試掘調査を実施した。9月の試掘調査では、宮ノ前第4遺跡の範囲内に当たる交差点の北西部分に1トレンチを設定した。土層堆積は、現地表から碎石層、1層:攪乱、2層:緑灰細砂[部分的にラミナあり]、3層:焼土・炭化物混入暗褐シルト質土[焼土塊(径3~10mm)・植物質繊維の炭化物を集中して含む部分あり。この下部に、円礫(径15~40cm)が隙間なく並んだ礫集中を検出。焼土中に磁器の細片(染付)が含まれており、幕末~明治時代以降のものと同判断した。]、4層:灰黄褐砂質シルト[酸化鉄の濃集の斑紋あり。韮崎市教育委員会によると、この堆積層を平安時代の遺構確認面としているという]、5層:褐灰粘質シルトである。10月の調査では、交差点の南東部分に当たる宮木遺跡内に2・3トレンチを設定した。2トレンチの土層堆積は、1層:盛土、2層:黒褐色シルト質土混じり褐灰砂質シルト[石白大型片や巨~大円礫を含む。近世~近代の落ち込みの覆土と思われる。]、3層:ふい黄褐シルト質土、4層:橙シルト質土[酸化鉄の濃集層、水田耕

作土)、5層:黒褐シルト質土〔部分的に粗砂のラミナらしき薄層あり。平安時代の遺物包含層〕、6層:褐灰砂質シルトである。3トレンチの土層堆積は、1層:明褐色シルト質土〔酸化鉄の濃集する水田耕作土〕、2層:黒褐シルト質土〔平安時代の遺物包含層〕、3層:褐灰砂質シルトである。土器片は摩耗した破片や細片ばかりで、また遺構は確認できず、工事に着手しても支障はないものと判断した。

3-10 国道20号(大月バイパス)建設事業

所在地 大月市大月町花咲地内
遺跡名 大石遺跡・花咲用水関連遺跡
調査期間 2014年1月14日(火)～3月7日(金)
調査面積 約600㎡(対象面積約10,000㎡)
担当者 八巻興志夫・保坂康夫・田口明子

対象範囲は、東西約500m、南北約15～30mと長く、その用地は水田、畑、荒地、針葉樹林と多様である。

調査は、西から1号～42号のトレンチを設定し、ミニバックフォワードで堆積層の確認をしながら掘削した後人力で精査を行った。

1～31号トレンチからは遺構・遺物は確認されなかった。32号トレンチでは現地表面から約1.4m下の暗褐色粘質土層(6層)を掘り込む土坑1基を確認した。また約2m下の黒褐色粘質土層(8層)より縄文時代前期の土器片が複数出土した。この層はトレンチの北側約4mの範囲で確認されたが、東・西端はトレンチ外へ続く。34号トレンチでは現地表面から約1.4m下の暗褐色粘質土層(6層)から古代の土師器・須恵器などの破片が複数出土した。また約1.65m下の暗褐色粘質土層(7層)上面で南北約1m、東西約0.65mの土坑を確認した。35号トレンチでは現地表面から約1.8m下の暗褐色粘質土層(5層)上面で径約0.6mの範囲の焼土跡を確認した。このトレンチから遺物は出土していない。36号トレンチでは現地表面から約2.2m下の暗褐色粘質土層(7層)から古代の土師器片1点出土した。37号トレンチの7層は現地表面から約1.9m下にあり、36号トレンチの7層と同層で、古代の土師器片1点出土した。36・37号トレンチでは遺構は確認されなかった。38・40・41号トレンチの表土層(1層)からは近世・近代の陶磁器片等が若干出土した。39号トレンチの現地表から約1.8m下の黒褐色粘質土層(4層)から古代の土師器片1点出土した。42号トレンチからは遺構・遺物は確認されなかった。

試掘の結果から、32～37号トレンチまでで、縄文時代・古代の遺構・遺物が確認された。30号トレンチでは遺構・遺物が確認されていないが、地形の制約からトレンチの掘削が現地表面から約1.6mまでと浅かったため遺物包含層に達していない可能性がある。また32号トレンチの西端で遺物包含層が西へ延びることが確認されている。これらを踏まえて30～37号トレンチの間で本発掘調査が必要であることが確認された。この範囲は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないため、新たに小字名をとって「大石遺跡」とする。また発掘調査対象範囲内には縄文時代・古代の少なくとも2面の生活面が存在することが明らかになった。

大月バイパスの建設予定地内にはまだ未買収地が存在するため、今回の試掘調査が及んでいない範囲がある。それらについては調査可能となった時点で今後試掘調査が必要である。

試掘調査と並行して実施した踏査の結果、近世に構築されたと思われる花咲用水関連遺跡を確認した。そのため甲州街道の下花咲宿に分水する幹線水路とその幹線水路から水田に引水した支線水路等の施設を記録保存することが望まれる。



試掘調査位置図

3-11 甲府地方検察庁別館解体及び新車庫建設事業に伴う 試掘調査《甲府城下町遺跡》

所在地 甲府市中央一丁目11-8
調査期間 2013年7月18日・26日
調査面積 44㎡（調査対象面積430㎡）
担当者 村石眞澄・宮里学



試掘調査 位置図

調査対象範囲は、甲府城下町遺跡内で「追手小路（舞鶴通り）」に面し、柳沢時代の家老「鈴木主水」の屋敷地にあたる。試掘調査は、建物の地上部分の撤去がほぼ終わり床面を剥がした段階で実施した。別館基礎内部の攪乱は100～120cmに及んでおり、この攪乱層の下に、細かい黄褐色（10YR5/4）シルト～褐灰（10YR4/1）シルト質土、暗灰（N3/0）シルトの順で堆積していた。各トレンチとも建物基礎工事などにより攪乱を受け、遺物包含層となる堆積層は失われていた。遺物は攪乱層から採集した磁器片が主体であり、近代以降が大半で、近世の遺物は染付磁器1片であった。その他に赤色煉瓦や近代以降の棧瓦などが多く出土した。また、1-5トレンチでは、現地表面から180cmの深さで、マツ材と思われる丸太材の“地中基礎”を確認した。この“地中基礎”は、丸太材を鉛直に打ち込み、この上に水平に丸太材（直径18cm、長さ180cm）を並べたものであり、地盤の軟弱な土地での基礎の不等沈下を防ぐものと思われる。これを埋める堆積土には赤色煉瓦を含むため、この“地中基礎”の時期は近代のものと同判断した。試掘調査の結果、工事を継続しても埋蔵文化財には影響を与えないと考えられる。

3-12 リニア見学センター整備事業に伴う試掘調査

所在地 都留市川茂字上揚久保502外地内
調査期間 2013年4月18日
調査面積 68㎡（調査対象面積9,713㎡）
担当者 村石眞澄・由井正昭



試掘調査 位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地である揚久保遺跡及び中谷遺跡に近接することから試掘調査を実施した。試掘対象範囲は大半が盛土整地工事であるが、道路から駐車場への進入路は掘削を行なうため、この進入路を中心にH25第1トレンチ、その南にH25第2トレンチを設定した。この地点は、駐車場にするために傾斜地を造成しており、碎石の下部に約1m以上の盛土があり、両トレンチは地山を確認しつつ重機による掘削を行なった。第1トレンチの規模は長さ約29m、幅約2m、深さ2m、その南の第2トレンチは長さ約5m、幅約2mである。以前の盛土の底面の大半には、黒色の保護シートが敷かれており、その下は明黄褐色シルト質土（風化火山灰を母材とする堆積層）の地山が主体であった。本来はその上層に存在するはずの遺物包含層となる暗～黒褐色土層は存在しなかった。地山の明黄褐色シルト質土も、傾斜地であるため斜面上方から崩壊したと思われる黒褐色シルト質土を層状もしくはブロック状に含んでいた。試掘調査の結果、両トレンチから遺構・遺物とも確認できなかった。今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えないと判断される。

3-15 鎌田川旧堤防

所在地 中央市田富町大田和地内
事業名 鎌田川河川改修事業
調査期間 2013年9月11日～2013年9月12日
調査面積 200㎡
担当者 保坂康夫・由井正昭・柴田亮平



試掘調査 位置図

鎌田川旧堤防は身延線と笛吹川の交点を南北に通っている最も古い記録では安永6年(1777)の「大田和村明細帳」に記載されている「笛吹川・宇坪川堤長千六間」の上流側にあると考えられている。

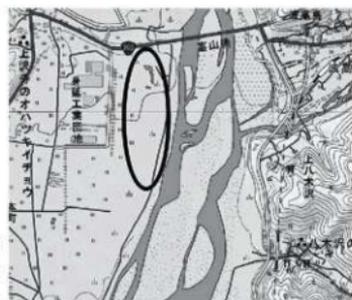
堤体はシルトを何層にもわたって積み上げることで構築されており、底部には細砂層の自然層が確認された。高さは2m程度であり、いわゆる「撥土土手(はねつちどて)」の状態を脱していない堤防である可能性が指摘される。しかし、竹林を植樹して堤防の強度を上げるなど、伝統的治水術に乗取って構築されていることもうかがえる。

堤体の最下層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った結果、1665年(寛文年間)以降の値が出された。大田和集落は慶長14年(1609)の笛吹川氾濫による堤防崩壊で壊滅的な被害を受け、現在の土地に移転した経緯があり、鎌田川旧堤防は移転後の大田和集落を守る堤防として構築され、機能していたと考えられる。

このような成果を踏まえて、本年度に図面整理、写真整理、注記、実測、トレースなどの整理作業をおこない、3月20日に発掘調査報告書を刊行した。

3-16 中部横断自動車道建設事業に伴う立会調査(身延町下山地内)

所在地 身延町下山地内
調査期間 2013年9月6日
調査面積 16.8㎡(調査対象面積949㎡)
担当者 村石眞澄・由井正昭



立会調査 位置図

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である下山堤防遺跡の推定範囲にあたるため、現行の霞堤を撤去する工事施工の連絡を受け立会調査を行なった。霞堤(上流側)は既に大半の上部が撤去され、一部が残存するのみであった。そこで、霞堤(上流側)については、露出している堤の横断面を再度バックホーで削り直して観察を行った。この部分は堤体には、練石積み(巨礫をコンクリートで固めて補強したもの)もなく、土羽であった。内部の堆積は中～大礫混じりの粗砂の一種の堆積であり、内部に古い堤防らしきものを確認することはできなかった。また、霞堤(下流側)では、川表側と天端には練石積みを剥がして解体作業を進めていた。バックホーにより掘削し横断面の観察を行なったが、やはり内部に古い堤防らしきものを確認することができなかった。

3-17 国道411号古府中環状浅原橋線改良事業に伴う立会調査《甲府城下町遺跡》

所在地 甲府市中央二丁目、四丁目地内
調査期間 2013年5月23日・24日・26日～28日、6月3日～5日、11月6日・10日・12日・13日・15日・21日
調査面積 140.4㎡（調査対象面積140.4㎡）
担当者 保坂康夫・山本茂樹・村石眞澄・今福利恵・田口明子・御山亮済



立会調査 位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地である、甲府城下町遺跡の範囲内にあたることから、発掘調査等による対応を行ってきた経緯がある。今年度も新たに買取された事業エリアを対象とした、電線共同溝設置に伴う立会調査を行った。5月23日から実施した調査では、約38mの区間を8日間で重機により掘削した。調査地点の西側において、近世の陶磁器片が出土したが、江戸期および古墳時代の層は攪乱を受けていることから、近代以降に投棄されたものと判断される。11月6日から実施した調査では、約40mの区間を6日間で重機により掘削した。調査地点では平成23年度調査で確認された江戸期および古墳時代の層は攪乱を受けているために確認されなかった。また、出土した丸太杭や丸太部材は、平成23年度の調査結果から近代の可能性が高い。他に遺構・遺物は発見されなかった。

以上により、工事を継続しても埋蔵文化財には影響を与えないと考えられる。

3-18 国道411号拡幅事業（勝沼地区）に伴う立会調査

所在地 甲州市勝沼町休息地内
調査期間 2013年9月18日・26日、10月21日
調査面積 約31㎡
担当者 田口明子



立会調査 位置図

立会対象範囲は南北に約100mと長いため、工事の進捗状況に合わせて1南端・2中央・3北端の順に調査を行った。掘削地点1は長さ約6m、幅約1.1m、深さ約2.3mのトレンチを掘削し、現地表面から0.9m下までは舗装道路による攪乱を受けていた。その下層に自然堆積のいぶい黄褐色粘質土が約0.3m堆積し、さらに約1.1mまで巨礫を含むオリープ褐色砂礫層が続いた。遺構・遺物ともになかった。掘削地点2は長さ約11m、幅約1.1m、深さ約1.6mのトレンチを掘削し、現地表面から約1mは舗装道路等による攪乱を受けていた。その下層から自然堆積となる黒褐色粘質土が約0.2m、さらに巨礫を含む暗褐色粘質土が0.4mの厚さで確認された。遺構・遺物ともになかった。掘削地点3は長さ約4.2m、幅約3m、深さ約2.7mのトレンチを掘削し、現地表面から約1.35mまで舗装道路等による攪乱を受けていた。その下層から自然堆積となるいぶい黄褐色砂層が約0.15m、灰黄褐色砂層が約0.7m確認された。遺構・遺物ともになかった。

今回の調査地点では遺構・遺物ともに見えなかった。また調査地点の土層観察からも旧河川が存していた可能性が高い。以上により、工事を継続しても埋蔵文化財には影響を与えないと考えられる。

3-19 甲府地方家庭裁判所都留支部仮庁舎建設事業に伴う 立会調査（谷村城跡）

所在地 都留市中央二丁目1-1
調査期間 2013年10月10日・11月21日
調査面積 10㎡（調査対象面積10㎡）
担当者 村石眞澄・由井正昭

周知の埋蔵文化財包蔵地である谷村城跡（谷村陣屋跡）が事業予定地に存在するため立会調査を実施した。10月10日には県道から通用門東の仮設水量計の北東の現地表下70cmで暗褐色土の包含層らしき堆積を確認し、11月21日には県道脇の石垣裏の現地表下15cmで明黄褐色土ブロック混じりのにおい黄褐色土の堅くしまった古い造成層を確認した。他は近現代の陶磁器片や瓦片を含むしりのない盛土であった。この敷地は南西の正門から北東に向かって傾斜しており、南西の正門の地盤に合わせて約1m以上の盛土造成が行なわれているらしいことが判明した。北東に隣接する甲府地方検察庁都留支部との境界にも裁判所の石垣が積まれ盛土されている。造成時期は含まれる遺物から近代以降のものと考えられる。この盛土は客土である可能性が高く、谷村城跡の遺構はその下に良好に保存されていると想定される。今回の立会調査では、遺構・遺物は確認できなかったため、埋蔵文化財の保護措置は必要ないと判断される。ただし、この敷地は谷村城跡（谷村陣屋跡）に当たるので、本庁舎建設に先立って発掘調査が必要である。



立会調査 位置図

3-20 山梨県庁舎耐震化等整備事業(埋設配管工事)に伴う 立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2013年4月22日～27日
調査面積 約78.15㎡（対象面積約78.15㎡）
担当者 保坂康夫・今福利恵・宮里学・花形裕・塩谷風季

表土剥ぎにおいて、昭和時代中頃の県庁舎建設に伴って整地された面が現地表面より約-70cmで検出された。

エリア1は、北東区で現地表面より約-70cmで整地層が確認され、北東側一部を除いて下半が攪乱であったが、瓦や陶磁器などを検出した。東壁は整地層を確認するために一部深く掘削を行い、現地表面より約-100～-170cmで直径約50～60cmの安山岩と小礫の凝灰岩を検出した。東方向へ続いていると思われるが性格は不明である。エリア2・4では、現地表面より約-70cmの粘性土層から遺物が散発的に出土したが遺構は認められず、約-80cmまでの掘削とした。エリア3は、エリア1より東10mで現地表面から約-60cmより遺物が多量に出土し始め、ここから東10mまでを保護区域として-60cmまでの掘削とした。また保護区域より東で南北に伸びると想定される安山岩の石列2列の一部を検出した。確認できた石列幅は約40cm、深さ約30cmである。石列2列は2段目の石まで残存していたため、保存措置を行うこととなった。エリア5では、現地表面より約-70cmより瓦が散発的に出土した。直径約70cmの礎石状の石を検出したが、石材が花崗岩であることから県庁舎に関係するものと思われる。-80cmまでの掘削とした。

一部現地表面より-90cmまで攪乱されている場所があるものの、現地表面より約-70cm以下の整地層中に瓦などが遺存していると判断される。



立会調査 位置図

3-21 山梨県庁舎耐震化等整備事業(埋設配管工事)に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2013年5月21日～6月5日
調査面積 約131㎡(対象面積約131㎡)
担当者 今福利恵・塩谷風季

5月21日に重機による掘削において、現地表面より約30cmから大きさ約50～100cmの石垣に関連する石、または転石等の大きい礫(安山岩)を検出した。5月22日に埋蔵文化財が存在していることが分かるように、埋文と書いたシートを石の上にかけて、山砂をかけて養生して保護措置を行った。5月23日に電気配線接続のため、一部深く掘削を行ったところ現地表面より約80cmまで攪乱層、約80～130cmまで江戸期の整地層、約130～160cmまで地山が確認された。現地表面から江戸期の整地層まで瓦や陶磁器などが出土した。5月24日に重機による掘削において、5月20日の現地協議を踏まえ、現地表面より約40cmで電気配線と上下水管の掘削範囲を一本化し、掘削範囲を最小限にした。5月27日に石垣が現地表面より約70cmで検出されたため、5月28日に管財課、学術文化財課、工事関係者、埋蔵文化財センターの4者で現地協議を行い、設計変更により、石垣を保存する事となった。5月30日に前記の4者で設計変更後の確認を行い、(1)石垣パークの緑石の規格を変更する。(2)埋設には砕石から山砂に変更する。(3)埋文シートを敷設後、石垣の保護層は25cm、13cm、7cmと傾斜に沿って設けることを確認し、現地にて埋設保存した。



立会調査 位置図

3-22 山梨県庁舎耐震化等整備事業(ガス管理設工事、GHP接続工事)に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2013年6月14日
調査面積 約7㎡
担当者 宮里学

6月5日、学術文化財課より本工事における立会調査の指示を受け、13日に施工方法および連絡体制等を確認し、14日の夜間工事で立会調査をおこなった。

当該地点は、県庁敷地から県指定史跡甲府城跡鍛冶曲輪門を繋ぐ横断歩道西側にあたる。江戸時代の絵図によると楽屋曲輪の北東部に該当し、「楽只堂年録」(1704年作図)では遺構が皆無の地域であるが、江戸時代後期の絵図には御金蔵や番所などが描かれている地域である。また、これまでの県庁構内の調査成果から、当該地周辺からは安山岩の岩盤が検出されており、石切場の可能性があった。

施工は、重機により幅1m以内、総延長10mを深度1.6mまで掘削し施工で、立会い調査の結果、甲府城に関わる遺構および遺物は検出されなかった。土層観察では、上層は攪乱の影響を受け、中段では部分的に近世から近代所産の盛土が認められ、下層は堆積土(風化または未固結安山岩)であることを確認した。本工事は、平成26年度に県庁旧館への埋設掘削が実施される予定であり、引き続き対応が必要である。



立会調査 位置図

3-23 山梨県庁舎耐震化等整備事業（シンボルツリー植栽）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2013年6月18日
調査面積 約10㎡
担当者 宮里学・花形裕

山梨県防災新館の建設に伴い、建物南東部にシンボルツリーとなる植栽を4地点で行う計画となり立会調査を実施した。

当該地点は江戸時代の絵図によれば楽屋曲輪の南端に該当し、甲府城大手門の橋の内側に比定される。この北側に大手櫓門が所在していた。これまでの発掘調査では、当該地点周辺から甲府城築城期所産の石垣遺構や瓦などの遺物が確認されている。

掘削は重機および人力による作業で、1～3号トレンチは150×150×100cm、4号トレンチは180×180×100cmの大きさを測る。全体に攪乱の影響を受け、わずかに粘性土の堆積層を確認できる部分もあったが、甲府城に関わる遺構および遺物は確認できなかった。なお、各トレンチの状況から、攪乱は北から南に向かって広がっていることが認められた。



立会調査 位置図

3-24 山梨県庁舎耐震化等整備事業（駐輪場地盤改良工事）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2013年7月9日～25日
調査面積 約216㎡（対象面積約216㎡）
担当者 今福利恵・塩谷風季

平成24年度に発掘調査を行った駐輪場地点を対象とした地盤改良工事を行うこととなったため、立会調査を実施した。

調査は、平成25年7月9日から12日に基礎工事のための床掘り及び配管埋設作業において地表下45cmの掘削であったが、既掘埋土内での作業であることを確認した。7月16日には地盤の載荷試験のための掘削の立会を行った。地盤改良は一部において保護した甲府城造成層へ掘削が及ぶことから現地協議にて慎重な掘削を要請し、7月25日にかけて立会調査を行った。発掘調査範囲内では甲府城造成層確認面となる直上までの埋め土に対して行われ、北端部から20m×幅約4mの80㎡は甲府城造成層上面から15cm程下がる地表下65cmまで改良のための掘削が行われた。遺構は検出されず、発掘調査における5号トレンチ付近で江戸期の瓦片がわずかに出土した。さらに先に敷設した上水道管について一部を切りまわす必要が生じ、8月1日に立会調査を行ったが、地表下50cmの掘削であり、アスファルト下の砕石内での作業であることを確認して終了した。



立会調査 位置図

3-25 山梨県庁舎耐震化等整備事業(県庁東別館解体仮設工事に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目20
調査期間 2013年10月29日～30日
調査面積 約80㎡
担当者 宮里学

当該地点は、県指定史跡甲府城跡鍛冶曲輪門の南側、県道31号甲府山梨線の西側にあたり、県警本部庁舎となっていた県庁東別館である。

江戸時代の絵図によると楽屋曲輪とその東に描かれる堀の境に位置する。現状では、県指定史跡範囲外であるが、唯一露出した石垣が残存している極めて文化財的価値の高い地点と評価できる。

したがって、県庁東別館解体工事に伴う仮囲いの設置工事では近代以降の盛土に48.6mmの単管パイプをおおよそ2m間隔で打設するのみであるが、当該地点の重要性に鑑み立会い調査を実施した。

石垣の上部は近代以降の改変と全体が被熱を受け表面剥離等が激しいが、露出部分のうち下部は甲府城築城期の野面積み石垣が残存している。この石垣の前面は堀が埋め立てられ、上面は嵩上げされ駐車場となっている。単管パイプの打設は、いずれも埋め立てまたは嵩上げされた部分のみで実施した。

立会い調査の結果、掘削を伴わないため遺構や遺物の検出はなく、野面積み石垣に打設の影響が生じないように留意した施工としたが、現状の地形を観察する限り、盛土により遺構が残存している可能性が極めて高いため、今後当該地点での施工には十分注意する必要がある。



立会調査 位置図

3-26 山梨県庁舎耐震化等整備事業(焼却場他撤去工事に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2014年1月21日～2月12日
調査面積 約240㎡(対象面積約240㎡)
担当者 今福利恵・網倉邦生・塩谷風季

調査地点は甲府城楽屋曲輪の東よりに位置し、県庁舎旧館の東側部分のすぐ北側に隣接するところである。工事は原則的に新規の掘削はなく、既存施設の基礎部分までの撤去を目的とするものである。

1月21日より2月12日にかけて既存施設の基礎部分の撤去が断続的に行われた。機関室の土間及び柱基礎の撤去が行われた。土間直下の地表下50cmまで玉石があり、その下は土層となる。周囲に柱基礎があり地表下150cm、基礎周り200×200のベースがありその周囲は攪乱されている。攪乱が著しいが、土間中央部の北端から南北8m×東西3mは、掘削していないため詳細は明らかでないが埋蔵文化財が依存している可能性がある。基礎周りの攪乱土から瓦、陶磁器、瓶類等の近現代に属するものが出土した。ゴミ置き場、煙突基礎解体では地表下1mまで煙突基礎がありその下が碎石層で、6m四方の基礎が確認できたが、撤去せずそのまま埋設することとなった。焼却炉基礎撤去は、管路敷設溝が地表下1mで南北に走っておりこれをまたぐように設置されていた。柱基礎は地表下80cmまで達し、その下に瓦層を確認



立会調査 位置図

したが、すべてが近現代のものであった。

当該地域は機関室中央部に埋蔵文化財が残る可能性があるが、機関室周囲は地表下150cmまで攪乱、煙突は基礎を残して埋め戻してあり少なくとも1m以上は攪乱、焼却炉及び管路溝は地表下130cmまでは攪乱されている。機関室中央部の南北8m×東西3mは、機関室土間以下の掘削をしておらず確認できていないが、埋蔵文化財が残っている可能性がある。

3-27 山梨県庁舎耐震化等整備事業（鉄塔他撤去工事）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2014年1月28日、1月31日
調査面積 約71㎡（対象面積約71㎡）
担当者 網倉邦生



立会調査 位置図

県庁舎耐震化等整備事業における議事堂東側の鉄塔等の撤去に伴い、掘削予定範囲の立会調査を実施することとなった。工事は新規の構造物を敷設するものではなく、既存施設の撤去を目的とするものであり、甲府城に関する遺構・遺物の依存状況を確認するため立会調査を行い、写真等による記録措置をとった。

1月28日に鉄塔周囲の擁壁及び東側にある、電気設備を設置するためのコンクリ床2基を撤去した。擁壁は南側、東側、北側、西側の順で撤去した。擁壁は地表下0.5mの位置に設置されており、擁壁の下は工事施工時に整地された土が確認された。鉄塔東側のコンクリ床は地表下0.4mまで埋設されていたが、コンクリ床の下は碎石が広がっていた。工事は地表下2.1mの位置にある鉄塔の床基礎（14.5m角の方形構造物）上面を露出させ、基礎の上に構築された4基の柱を撤去する計画であったが、鉄塔の床基礎範囲内は敷設工事施工時に掘削済みであるため、調査対象から外した。

1月31日に鉄塔の西側にある擁壁について、東側の土壌を底面まで掘削し、部分的に切断してから撤去するという順序で工事を行った。南側の擁壁脇から掘削したところ、擁壁底面（地表下1.5m）の黒色土層中から近現代の陶磁器片やアワビの貝殻などが出土した。黒色土層の広がりは70cm×70cmほどで周囲にも白色土が面的に広がっていた。遺物や土層の出土位置は議事堂地下の擁壁上端と同じ高さであり、旧地表面である可能性が高い。また、掘削地点北端の土層から明治期の磁器片を伴う焼土層が確認され（地表下60cm）、その上層に碎石層（地表下50cm）、下層からは粘質土層（地表下80cm）に掘り込みの可能性がある断面も認められた。これらは遺構に関連する可能性はあるが、粘質土層を除いてはしまりに欠いているため、精査を要する。

鉄塔の埋設基礎造成に伴い、鉄塔を中心とした14.5mの範囲は、地表下4.1m以上掘削されている。ただし、鉄塔西側擁壁の北端で複数の土層が検出されていることから、鉄塔北側の掘削工事には注意を要する。また、議事堂東側は、旧地表面が残されている可能性をふまえ、調査を行う必要がある。

3-28 山梨県庁舎耐震化等整備事業（渡り廊下基礎撤去）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2014年2月5日～8日
調査面積 約100㎡（対象面積約100㎡）
担当者 今福利恵・宮里学・塩谷風季

県庁舎耐震化等整備事業における本館と旧館西側をむすぶ渡り廊下の基礎撤去に伴い、掘削予定範囲の立会調査を実施することとなった。調査地点は甲府城楽屋曲輪の西よりであり、県庁舎旧館の西側に隣接するところである。原則的に新規の掘削はなく、既存施設の基礎部分までの撤去を目的とするものである。

2月5日より2月8日にかけて既存施設の基礎部分の撤去が断続的に行われた。渡り廊下の土間及び柱基礎の撤去が行われた。土間直下の地表下30～40cmまで玉石があり、その下は土層となる。周囲に柱基礎は2カ所にあり、北側2本、南側4本となる。基礎周りは地表下120cmまで掘削されており攪乱されている。柱基礎下にはコンクリート杭が2本ずつ打ち込まれていた。渡り廊下はさらに地表下200cm程の掘削を行うとのことであり、コンクリート杭の上端1m程を撤去する指示があったが、埋蔵文化財未調査区域であることから中止を指示し、埋蔵文化財調査を要請した。本館に接続する部分についての土間撤去は、既存基礎の撤去のみでありそれ以上の掘削はなかった。

既存基礎のみの撤去であり、それ以上の掘削はしていないが、特に土間下は埋蔵文化財が遺存している可能性がある。また西側に隣接する駐車場において平成23年度の発掘調査において当該地区は、地表下200cm以下までは地山層が確認できないほど深くまで造成層であることがわかっている。よって土間下のみならず柱基礎があった部分についても埋蔵文化財が残っている可能性がある。今後の工事で地表下200cm程掘削することなので当該箇所について、埋蔵文化財調査は必要となる。



立会調査 位置図

3-29 山梨県庁舎耐震化等整備事業（外部埋設管撤去工事）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2014年2月11日
調査面積 約30㎡（対象面積約30㎡）
担当者 塩谷風季

県庁舎耐震化等整備事業における機械設備工事のガス管撤去により議事堂委員会室棟東側から北別館南西側に向かって、埋設されたガス管を撤去するための掘削工事が行われることとなり、その掘削予定範囲の立会調査を実施した。調査地点は甲府城楽屋曲輪の周辺となる。掘削は議事堂委員会室棟東側から東へ向けて構内道路を通過しドライエリアまでの区間と、構内道路で前記の区間と直交し北へ向けて掘削し、委員会室棟解体工事ヤード北東角を越えたところで西へわずかに掘削し、再び北へ向けてクランクして北別館スロープ下のガス設備に至る範囲である。立会は既存のガス管の撤去であり、甲府城に関する遺構・遺物の遺存状況を確認すべく立会調査を実施し、写真等による記録を行った。



立会調査 位置図

議事堂委員会室棟東側から西のドライエリア間の掘削は全長約10m、幅1mで地表下0.6mまでの掘削であり、そこから委員会室棟解体工事ヤード東側の構内道路を直行し、北へ全長約14m、幅0.8mで地表下0.5mまでの掘削をおこなった。この区間では排水溝が東西方向に横断しており、排水溝の周辺のみ地表下0.7mまで掘削した。そこから委員会室棟解体工事ヤード北側に沿うように西へ全長約13m、幅0.8mで地表下0.5mまで掘削し、北へ全長10m、幅0.8mで地表下0.5mを掘削し、北別館スロープ下のガス設備まで北西へ向けて全長約4m、幅0.7mで地表下0.6mまで掘削した。

瓦片が埋設管の養生のために埋められた砕石の中から数点出土しているが、甲府城との関連性は低いと思われる。いずれも埋設管があり既掘された範囲であり、2月11日の1日で問題なく終了した。

3-30 山梨県庁舎耐震化等整備事業（外部埋設先行配管工事）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
 調査期間 2014年2月21日～27日
 調査面積 約50㎡（対象面積約50㎡）
 担当者 今福利恵・塩谷風季



立会調査 位置図

県庁舎耐震化等整備事業における機械設備工事の外部埋設先行配管敷設により議事堂南側の東エリアから旧館に向かって配水管と仮設配水管を埋設するための掘削工事が行われることとなりその掘削予定範囲の立会調査を実施した。調査地点は甲府城楽屋曲輪のほぼ中心地となる。掘削は議事堂南側のドライエリア横から南に向けて掘削し花壇擁壁を超えたところでわずかに東にクランクして南側へ延びる位置と、旧館東棟の北側壁に沿った東西方向の位置の2カ所である。

旧館東棟の北側沿いの掘削は全長約20mで地表下80cmまでの掘削であるが、いずれも埋設管が既掘されたところである。当該地域は古い管が多く埋設されており、攪乱が著しい。

議事堂ドライエリア脇の花壇では擁壁上端から90cm下にて瓦が多く出土した。花壇をでて南にクランクしたところで地表下約30cmで水路を検出した。水路は幅約40cm、深さ約20cmで底面に平瓦がきれいに敷かれており東西方向に伸びている。管敷設に影響があることからこれを東方向に隣接する既存の情報管路下へ迂回することとした。また水路南側で議事堂ドライエリア端部から南約15m地表下60cmで礫が入った溝状遺構を検出したため現状保存とした。予定していた管路はここまでであるが、旧館改修工事における仮設事務所の排水管理設のための掘削を引き続き西方向へ延ばして行うこととなった。掘削深度は約40cm以下であり南にむかうにつれて浅くなっていく。過去の試掘でコンクリート基礎があったところで除去したところ直下の地表下40cmで南北方向の石列を検出した（旧館、議事堂渡り廊下壁から東へ11.8mの地点。石列のすぐ東側は攪乱されているが、西側はオリジナル土層がのこっている）。

議事堂南側で旧駐車場としていた一帯は地表下40cm程で江戸期包含層にあたり、管路による攪乱以外は比較的遺存状況がよいものと思われ、埋蔵文化財が残っている可能性がある。今後の開発にあたっては注意を要する。今回の立会でみつかった石列をともなう水路等の遺構は、管路を迂回する等により、すべて現地にて砂で養生した上で埋設保存とした。

3-31 山梨県庁舎耐震化等整備事業（電気設備工事）に伴う立会調査

所在地 山梨県甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2014年3月2日
調査面積 約21.6㎡（対象面積約21.6㎡）
担当者 網倉邦生



立会調査 位置図

県庁舎耐震化等整備事業に伴い、別館北西に位置するハンドホールから駐車場を東西に横断して2本の配管を埋設する工事の立会調査を実施した。工事は、幅0.6m、深さ0.9mを掘削する計画であったが、埋設物、埋蔵物が検出されたため、施工計画の一部変更した。立会調査では工事の進捗に従い、写真等による記録措置をとった。

ハンドホールから1.1m東側までケーブル埋設（ケーブル上部でGL-0.63m）やハンドホール敷設のため掘削されており、ハンドホールから2.7m東側の位置で水道管が検出された（GL-0.6m）。水道管はアスファルト下から掘削され、下に砂、上に砂利が充填されている。また、ハンドホールから1.7m東側の地点で北東-南西方向に軸をもつ土管が検出された（GL-0.5m）が、近代のものと判断して掘り下げを継続した。

ハンドホールから1.7m東側の地点で大形の礫が検出された（GL-0.65m）。礫は掘削範囲より南側に広がっているため、全体形状は不明であるが、東西方向で1mを計る。礫の上部は東側が平坦であるのに対し、西側は傾斜しており、北側の端部は直線的な形状を呈する。礫は遺構に関連する可能性があることから、業者と協議したところ、礫の北に縦位置に配管を敷設して工事を進めることとなった。配管経路が屈折する手前のハンドホールから東へ3.6m進んだ地点で終了した。

掘削地点東端で土層観察を行ったところ、GL-0.7mの位置で自然堆積層である暗褐色粘質土が検出された。このことから、立会調査地点周囲は、配管や水道管の埋設などによる掘削は受けているものの、建造物を敷設する際の大規模掘削は受けていないと判断される。今回の調査で検出された礫も含め周辺の工事施工時には、慎重な調査が要される。

3-32 山梨県庁舎耐震化等整備事業（電気設備工事）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2014年3月3日～3月10日
調査面積 22㎡
担当者 今福利恵、塩谷風季



立会調査 位置図

県庁舎耐震化等整備事業における電気設備工事の埋設先行配管敷設により議事堂南側の旧館中央部から西に向かってエフレックス管を埋設するための掘削工事が行われることとなり、その掘削範囲の立会調査を実施した。調査地点は甲府城楽屋曲輪のほぼ中心地となり、柳沢期には書院があった場所である。掘削は旧館中央部西側の横に2m×2m、深さ130cmのハンドホールを設置し、そこから西に向けて幅60cm、深さ90cmで掘削していった。新規の掘削であり、甲府城に関する遺構・遺物の遺存状況を確認すべくハンドホール部分は本調査とし、他管路は立会調査として実施し、写真等による記録を行った。

ハンドホール部分は地表下45cmで砕石下の埋め土である暗褐色土をぬいたところの暗褐色土上面で止めて人力による精査を行った。若干の瓦片が出土したが遺構は確認できなかった。さらに地表下120cmの黄褐色砂利質土下の暗褐色粘質土でとめて手掘りしたが遺構・遺物はみられなかった。調査範囲内の東側2/3は攪乱されていた。西側断面には地表下45cmに礫のはいった溝状遺構を確認したが、管路側には延びておらず部分的であった。

管路部分では5カ所で礎石と思われる扁平礫を地表下50cmで確認した。東側の2個は約5m（3間分）の間隔でその間には瓦が集中して出土した。さらに4.6m西側において地表下50cmで礫が南北に並んでいるのを検出した。その間3mでは地表下80～90cmで大量の瓦が出土した。別館中央西壁から約26mにおいて地表下40cm付近で礫がまとまってみられ、周囲幅120cmの範囲に細かな漆喰片が散乱しており、塀あるいは壁の痕跡と思われた。その先では地表下85cmで南北方向の礫の入った溝を検出した。また西側部で地表下75cmにて礫の入った溝状遺構を確認した。西端部の既設ハンドホールへの接続では地表下65cmより幅1mほどの大型礫がみられた。

掘削によって確認された礎石、石列等はすべて管路を迂回させて敷設することで原位置での埋設保存とした。保存に当たっては山砂にて養生し、遺構正面に埋設シートを敷いたうえで埋め戻した。また西端部は管路埋設が浅くなったため後日再び迂回路を検討して工事することとなった。

議事堂南側で旧議員駐車場としていた一帯は地表下45～50cm程で江戸期の包含層にあたり、管路による攪乱以外は比較的遺存状況がよいものと思われ、埋蔵文化財が残っている可能性がある。今後の開発にあたっては注意を要する。今回の立会で見つかった礎石、石列等の遺構は、管路を迂回する等により、すべて現地にて砂で養生した上で埋設保存してある。

3-33 山梨県庁舎耐震化等整備事業（電気設備先行埋設工事）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2014年3月4日
調査面積 約50㎡（対象面積約50㎡）
担当者 塩谷風季



立会調査 位置図

県庁舎耐震化等整備事業における電気設備先行埋設工事により旧館北側東エリア内に電気設備（ハンドホール）を埋設するための掘削工事が行われることとなり、その掘削予定範囲の立会調査を実施した。調査予定場所は甲府城楽屋曲輪のほぼ中心となる。掘削範囲は旧館北側東エリアの発電設備の東側に位置し、全長1.8m、幅1.8mで地表下1.1mまでの掘削である。立会は既存のガス管の撤去であり、甲府城に関する遺構・遺物の遺存状況を確認すべく立会調査を実施し、写真等による記録を行った。

掘削範囲の土層順序及び性格としては、既設の電気配管を埋設する際に入れられた砕石（1層）が約0.6m厚、暗褐色土の旧地表面（2層）が約0.1m厚、暗褐色粘質土に黄色土が斑状に混入する造成層（3層）が約0.2m厚、白・青色の粘土が斑状に混入する黄褐色粘土層は岩盤の風化層（4層）は約0.2m厚である。4層からは湧水が認められ、地表下から約1.1m以上は掘り下げていない。

今回の立会は既存の埋設管の範囲に重複するように掘削され、新規に掘削した範囲は1層の砕石除去後の約0.5m厚であるが、遺構・遺物の検出はなかった。

3-34 山梨県庁舎耐震化等整備事業（渡り廊下管路工事）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1
調査期間 2014年3月11日
調査面積 約50㎡（対象面積約50㎡）
担当者 今福利恵

県庁舎耐震化等整備事業における渡り廊下部分の工事で基礎造成予定地より、直径0.6mの管が想定されたため、その位置を確認するため、立会を行った。

掘削地点の西側、コンクリート土間下（地表下160cm）で検出した。掘削範囲においては、他にも管路があり、地表下110cmまでは掘削されている。



立会調査 位置図

3-35 山梨県警本部通信施設整備事業に伴う立会調査《甲府城跡》

所在地 山梨県甲府市丸の内1-6-1（県庁構内）
調査期間 2013年8月10日（土）
調査面積 約6㎡
調査担当 保坂康夫

本調査は、県庁防災新館の建設に伴い、電話回線切り替えのため、本館と別館の間（本館の守衛室側の出入口から北東に向かい、別館のマンホールまでの間約6m）を幅90cm、深さ60～70cm掘削するのに伴い、甲府城跡跡屋曲輪内に当たるため立会調査を実施したものである。

調査範囲の中央部で、深さ80cmから石敷きを確認した。石敷きを構成する礫は、直径40～20cmの亜円礫で、旧館側への広がりを確認した。石敷きは甲府城跡関連建物に関連する可能性があると判断した。掘削については石敷きの直上で止め、その上に配管するように指示し、石敷きの保存処置を執った。石敷きより新館側については、埋設管、コンクリート擁護壁、H鋼などで、深度80cmまではすべて攪乱されていた。

なお、土層については、石敷き西壁にて観察したところ、現地表のアスファルト面より50cmまで碎石層があり、その直下に比較的硬質の黒褐色粘質土層があり、石敷きを30cmほどの厚さで覆っていた。黒褐色粘質土層の上半部にはスレート細片や漆喰片、針金等が混在していた。



立会調査 位置図

3-36 東部地域総合制高校建設事業に伴う立会調査（三ノ側遺跡）

所在地 都留市上谷5-7-1（旧県立谷村工業高校、県立都留興譲館高等学校）
調査期間 2013年4月30日・6月13日・7月16～17日
調査面積 45㎡（調査対象面積45㎡）
担当者 田口明子・村石眞澄・由井正昭



立会調査 位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ側遺跡範囲内であるため、仮設校舎に伴う給排水管設置の掘削についての工事立会を行った（第2図立会調査地点1）。重機により幅約0.5m、長さ約20m、現グランド面からの深さ約0.6～0.9mの溝を掘削した。当初の予定では給水と排水のための南北に直進する溝二本を掘削する予定であったが、排水路の位置の溝に両方とも埋設することとなったため掘削する溝が一本となった。現グランド面から約0.6mまでは砂・礫を主体とする人為的な整地層でそれ以下は黒褐色土層（10YR2/2）であった。黒褐色土層中から遺構・遺物は確認されなかった。6月～7月には、南北の給排水管に接続する東西方向の延長距離70m、幅0.5mの給排水管設置工事への立会を行った（第2図立会調査地点2）。北東方向末端の既設排水管に接続する部分は、掘削深度が最大1.25mに及んだ。土層堆積は、現地表から0.25mまでがグランド整地層、0.7mまでが下部に酸化鉄の濃集が認められる褐色シルトの水田耕作土、これ以下が黒褐色土層であった。黒褐色土層中から遺構・遺物は確認されなかった。

3-37 県立白根高等学校第二グラウンド人工芝張替事業に伴う立会調査

所在地 南アルプス市上今諏訪字中河原850-1
調査期間 2013年10月8日
調査面積 5㎡（調査対象面積5㎡）
担当者 村石眞澄



立会調査 位置図

近隣に堤防遺跡が存在するため、平成25年8月29日に全国高校総体推進室・営繕課・学術文化財課・埋蔵文化財センターによる協議に基づき、新設する防流ネットのコンクリート柱設置工事のために大型ドリルで掘削する際に、立会調査を実施した。確認した堆積層は、現地表から25cmまで既存のグラウンドの整地のために敷かれた碎石層であり、25～70cmまでが中円礫混じりに黄褐色（2.5Y6/4）シルト質砂、70cm以下が巨礫～大礫混じり灰オリーブ（5Y5/2）粗砂であった。これらの堆積は通常の河川堆積物と思われ、また遺物の発見はなく、堤防などの遺構は確認できなかった。掘削範囲もコンクリート柱部分に限定されるため、工事を実施して支障ないと判断した。

3-38 都留高等技術専門学校校舎解体事業に伴う立会調査 (沖大原遺跡)

所在地 都留市小形山1
調査期間 2013年11月5日
調査面積 2㎡(調査対象面積2㎡)
担当者 村石眞澄

周知の埋蔵文化財包蔵地である沖大原遺跡(散布地、縄文時代)の範囲が敷地に及ぶため、産業人材課・学術文化財課・埋蔵文化財センターによる協議に基づき、解体工事に伴い立会調査を実施した。立木抜根作業は校舎等の建設による既掘範囲外に及ぶ可能性があるため、11月5日に立会調査を実施した。懸念された桜の大木については抜根を行わないことになり、建物周囲の小木の抜根作業の立会を行った。抜根作業は解体用のベンチ形の重機を利用していたため、掘削範囲は限定的であった。観察できた土層は、碎石・黄褐色土混じりの黒褐色土であり、既掘土範囲に根を張っていたものであることを確認した。遺構・遺物は確認できず、平成26年1月予定の解体工事の際に、再度の立会調査を行うこととした。

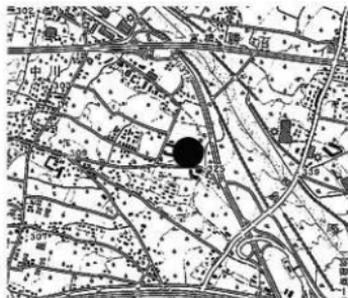


立会調査 位置図

3-39 かえて支援学校分教室格技場他解体事業に伴う立会調査結果報告

所在地 都留市川茂字上揚久保502外地内
調査期間 2014年2月6日
調査面積 約54㎡(対象面積約54㎡)
担当者 網倉邦生

本事業は、弓道場南側に植栽された樹木を抜根する工事に伴う立会調査である。調査では、用地内の中央→東側→西側の順に抜根する中で、大形の掘削範囲を対象として5地点の遺構確認と土層観察を行った。掘削地点1では、礫混じり細砂層(80cm)の下に粗砂混じり細砂層が堆積していた。粗砂混じり細砂層中からは、平安時代の土師器片が1点出土した。土師器片の周囲は摩耗しているため、流れ込みと考えられる。掘削地点3～5では



立会調査 位置図

地表下60～70cmの位置で暗褐色土・礫混じり細砂層が検出され、掘削地点5においては、地表下1.2mの位置で粒径の揃った礫を含む粗砂層が確認された。この粗砂層は、金川の旧河床面の可能性を有する。

本調査地点北側に位置する狐原遺跡の調査では、北東-南西方向に走る砂礫層に挟まれた尾根状の地形から平安時代の集落が検出された。立会調査地点周辺は金川の氾濫による影響を受けているが、金川を中心に尾根地形と谷地形が形成されている可能性があり、本地点は谷地形に位置する氾濫原であったと捉えられる。

今回の立会調査では、遺物は確認されたものの、流れ込みと考えられ、遺構は検出されなかったため、工事を進めても差し支えないと判断される。

3-40 県立北杜高等学校下水管等改修工事に伴う立会調査

所在地 北杜市長坂町塚川地内
遺跡名 原町農業高校前遺跡
調査期間 2013年11月28日(木)
調査面積 約3.5㎡
担当者 田口明子



立会調査 位置図

今年度11月に県立北杜高等学校より学術文化財課に緊急に下水管の取り換え工事をしたいと連絡があり、遺跡の有無を確認するために立会調査を実施した。

枡番号40で下水漏れが発生していたため、下水管に沿って長さ約2.7m、幅約1.0mの範囲をミニバックフォアで現地表からの深さ約1.2mまで掘削した。現地表から約0.15mは表土の山砂で覆われ、その下層は現下水管を敷設した時の埋め土が約0.85m、その下に下水管を保護する山砂が約0.2m確認された。

枡番号36では地上部に立ち上がる下水枡の蓋部分が破損していたため、下水管に沿って長さ約1.0m、幅約0.8mの範囲をミニバックフォアで深さ約0.25m掘削した。枡番号40と同様に地表下約0.15mは山砂でその下層は下水管の埋め土を確認した。

今回の調査地点では既掘範囲内の掘削だったため遺構・遺物ともに発見されなかった。

以上により、工事を継続しても埋蔵文化財には影響を与えないと考えられたため現地でその旨を伝えた。

3-41 急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査(南部町福士地内)《火打石遺跡》

所在地 南部町福士23400外
調査期間 2013年5月7日
調査面積 12㎡(調査対象面積12㎡)



立会調査 位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地である火打石遺跡(散布地、中世・近世)が事業予定地にあるため、立会調査を実施した。立会調査は、法面掘削作業に合わせて、三カ所にトレンチを設定し埋蔵文化財の確認を行なった。今回の調査範囲は、事業予定地の北側の一部である。1トレンチは工事掘削深度の1.3mまで調査を行なった。以前に小屋が建っていた場所で攪乱が深かった。地山は大角礫～中角礫混じりの褐色(10YR4/4)砂質土。2トレンチも工事掘削深度の1.3mまで調査を行なった。地山は大角礫～中角礫混じりの褐色(10YR4/4)砂質土、巨角礫を含む。3トレンチは工事掘削深度の1.2mまで調査を行なった。地山は大角礫～中角礫混じりの褐色(10YR4/4)砂質土。調査地点は、福士川の河岸段丘と丘陵が接する場所で、地山は急斜面崩壊に由来する堆積物と福士川河川堆積物が混在しているものと推定される。今回の立会調査では、遺構・遺物は確認できなかったため、今回の工事区間における埋蔵文化財の保護措置は必要がないと判断した。ただし、今回の調査地点の南側の工事対象範囲は、火打石遺跡範囲に含まれるため、別途埋蔵文化財の確認が必要である。

4-42 急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査（南部町内船地内）《馬場道上遺跡》

所在地 南部町内船394番地外
調査期間 2013年6月7日
調査面積 4㎡（調査対象面積4㎡）
担当者 村石眞澄・由井正昭



立会調査 位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地である馬場道上遺跡（散布地、縄文）が事業予定地に近隣するため、立会調査を実施した。立会調査は、法面上部の掘削工事の着手時に、バックホーにより掘削し、遺構・遺物の確認を行なった。地表から層厚10～20cmの表土（腐食土層）の下は、直ちに風化岩盤となっていた。表土は、小～大角礫混じりのにおい黄褐色(10YR4/3)土であり、風化岩盤の内部の色調は灰色(10Y6/1)であるが、表面の風化面は黒褐色(2.5Y3/1)を呈している。法面下部はコンクリート擁壁が既に設置されており、これを設置する段階で法面上部を掘削整形したものと思われる。風化火山灰の堆積層もなく、今回の立会した工事区間における埋蔵文化財の保護措置は必要がないと判断される。

ただし、今回の工事区間に西側に連続する事業区間は、平坦地を含み遺構・遺物が発見される可能性が高いので、工事に先立って慎重な調査が必要である。

3-43 曾根丘陵公園防災公園整備事業に伴う立会調査《上の平遺跡他》

所在地 甲府市下向山町地内
調査期間 2013年11月13日・12月2日
調査面積 約20㎡
担当者 保坂康夫



立会調査 位置図

県土整備部では、東北大震災以降に震災等の発生時に備えて自衛隊等の救援部隊の設営基地として使用可能な場所として、曾根丘陵公園を指定し、防災拠点として使用可能な設備の整備を計画し、平成24年度に引き続き実施した。今年度は曾根丘陵公園内の植樹の移転と、バーベキュー広場の給水設備増設について、立会調査を実施した。

11月13日の立会調査は、バーベキュー広場で実施した。旧来の給水設備に隣接してもう1カ所増設するもので、小型重機によって1×1mの範囲を掘削した。付近には、方形周溝墓が埋設保存されているため、埋め立て層以内の施工を指導する必要があるため、慎重に80cmの予定深度までの掘削を進めた。しかし、埋め立て層である碎石層であったため、遺構の上面の状況確認のため、さらに深度を深めたところ、地表下90cmで遺構保護メッシュに到達した。遺構保護メッシュは、黒色の樹脂をコーティングした5cmマス目の金網で、黒色土層の上面に直接、埋設されていた。その状況を確認し、予定深度では影響ないとして、工事の実施を指示した。

また、そこからの上水管配管は、保存遺構に影響ないように、バーベキュー広場北側縁にある歩道に埋設するよう指導し、掘削を行った。深度80cmで黄褐色粘土質山土層が露出した。本来、この地域にはローム層が発達しているが、ローム層はすでになく、その下位に位置づけられる土層である。しかも、その

土層を掘り込んですでに管が敷設されており、その管の敷設溝内に配管するように指示した。

さらに、その南側の道路脇で、既設の表示板を移設するため、広さ1×2m、深度60cmの掘削の立会調査と、道路に沿った地点の管理設のための立会調査の2カ所を実施した。この掘削範囲では、埋め土層である軟質粘質土しか現れなかったため、その範囲での掘削施工を指示した。

12月2日は、研修センター北側駐車場での2本の植樹の移設作業である。植樹の根が張った深度である50cmの掘削を行ったが、埋め土層である軟質粘質土しか現れなかったため、その範囲での掘削施工を指示した。

3-44 銚子塚古墳隣接地民家建設に伴う立会調査

所在地 甲府市下曾根町809-2

調査期間 2013年5月10日

調査面積 256㎡（調査対象面積256㎡）

担当者 村石眞澄・由井正昭、小林健二（以上埋文センター）、佐々木満、鷹野義朗（以上甲府市教委）



立会調査 位置図

建物基礎工事について学術文化財課からの連絡を受け、国史跡銚子塚古墳の周溝の外縁部にあたるため甲府市教委と立会調査を行なった。工事は建物の東側の基礎部分の掘削で、地表下40cmで地山が確認された。地山は明黄褐色（10YR7/6）

砂質シルトで暗赤褐色（5YR3/6）の酸化鉄と思われる斑紋が認められる。立会地点の敷地北側の路地は周溝に向かって傾斜しており、銚子塚古墳の周溝の外縁が現在の宅地の下に伸びていることが推定されている地点である。この地山の確認により、この部分が銚子塚古墳の周溝外であることが確認された。史跡範囲の周囲は周知の遺跡範囲になっていないため、遺跡範囲の確認、指定範囲の拡大を検討する必要がある。

第三章 県内の概況

1 届出件数と内容

文化財保護法施行令第5条により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限の一部を、平成19年度より富士吉田市を除く12市に移譲し、平成21年度には富士吉田市へ、平成22年度には身延町および富士河口湖町へ権限を移譲したことにより、県下の15市町へ文化財保護法第93条・第94条に係る権限の一部を移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慎重工事などの軽微なもので、「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会にて行っている。権限移譲にあたって、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が設置されている自治体を対象とし、山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例により実施した。よって平成19年度以降の届出件数について、権限移譲した分があるため県への届出件数が減少している。

平成25年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条：8（5）件、法93条：195（179）件、法94条：50（43）件、法96条：0（0）件、法97条：2（3）件、法98条：0（0）件、法99条：242（198）件である。届出の総件数は497（428）件であり、前年度と比較すると、その件数は69件の増加となっている。

※（ ）内数字は前年度。過去20年間の件数の変遷は58頁の表のとおり。

2 発掘調査

平成25年度に実施された県内の発掘調査件数は、58頁の表のとおり試掘調査を含めて250（205）件（学術調査等含む）となっている。その内訳は、県教委による調査が14（21）件、市町村教委による調査が228（179）件、民間調査組織による調査が8（5）件である。発掘調査の原因は、道路28（21）件、鉄道0（1）件、河川1（0）件、学校建設3（3）件、集合住宅7（10）件、個人住宅93（60）件、工場1（0）件、店舗7（12）件、個人住宅兼工場又は店舗3（2）件、その他建物30（27）件、宅地造成26（30）件、土地区画整理2（3）、公園造成0（1）、ガス・電気・電話・水道2（6）件、農業基盤整備事業13（10）件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業0（2）件、土砂採取1（0）件、その他開発27（11）件といった緊急調査と、学術調査2（2）件、保存目的の範囲確認4（2）件、遺跡整備0（2）件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では道路などが目立ち、民間開発においては個人住宅建設や太陽光発電施設設置に大幅な増加傾向がみられる。 ※（ ）内数字は前年度。

3 国指定有形文化財（考古資料）及び国指定史跡

平成25年度は、国指定有形文化財（考古資料）として酒呑場遺跡出土品一括が指定された。これは縄文時代前期に始まり、中期に最盛期を迎える集落跡から出土した多量の土器・土製品の一括683点である。また、10月末に大丸山古墳が、平成26年3月中旬には梅之木遺跡が国指定史跡に指定された。これで本件の国指定史跡は15件、県指定史跡は28件となった。

4 発掘調査の成果と保存整備事業

平成25年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて250件（学術調査等含む）である。

甲州市の五反田遺跡では、奈良時代から平安時代にかけての大規模集落が見つかり、条里制の名残も確認された。富士河口湖町の鯉ノ水遺跡では、古代に都と地方を結ぶ幹線道路であった「官道」とみられる遺構が県内で初めて確認された。笛吹市前付遺跡では、砂の入った状態の縄文土器が見つかり、土器を作る際に人為的に砂を混入させたことを示す遺構の可能性があり、注目された。また、奈良時代の

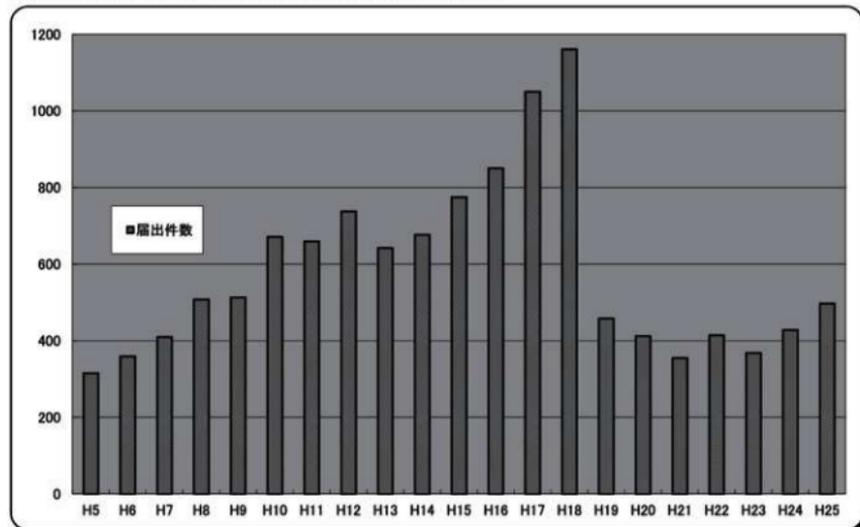
寺院に関わる遺構群も発見され注目を集めた。北杜市上原遺跡では、県内の平安時代の牧場跡からの出土としては初めて鉄製の馬具が確認された。甲斐市の御岳田遺跡では、古墳時代前期の遺跡から加工途中の管玉が出土し、同遺跡近くの末法遺跡に続いて県内で2例目であることから、この地域が古墳時代の宝飾品加工に重要な役割を果たしていた可能性が注目された。

保存整備事業としては、国史跡の武田氏館跡（甲府市）で西曲輪土塁の修理が行われた。新府城跡（韮崎市）では、東出構周辺の整備と三日月堀周辺の大規模な除草が行われている。また、勝沼氏館跡（甲州市）では、災害復旧事業として、平成23年の台風で崩落した堀の修理が行われた。県史跡では連方屋敷（山梨市）で整備のための調査が行なわれ、その成果をもとに整備工事が行なわれている。甲府城跡では石垣補修に伴う調査が行われている。なお、9月には県庁防災新館の地下に「甲府城石垣展示室」がオープンした。

5 発掘調査体制

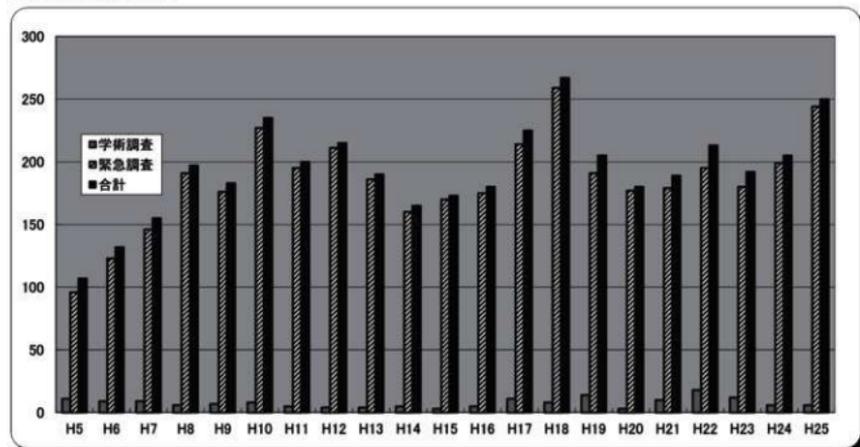
埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課4名、埋蔵文化財センター22名（うち教員派遣交流3名、非常勤嘱託4名）、博物館3名、考古博物館3名（外に非常勤嘱託2名）である。市町村では、甲府市6名、富士吉田市2名、甲州市2名、大月市1名、韮崎市3名、南アルプス市3名、笛吹市2名、甲斐市1名（外に臨時職員1名）、北杜市4名、山梨市3名、中央市1名（昭和町を兼務）、都留市1名、上野原市1名、身延町1名、富士河口湖町1名、忍野村（1名）（非常勤嘱託）となっている。埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち17市町村で約63%となり、平成15年度の61%（64市町村のうち39市町村）と比べ増加しているが、担当職員数は54名から16名減の38名（嘱託等含む）の配置状況であり、市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われ、埋蔵文化財専門職員の配置換えによって実質的に配置職員数の減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。近年発掘調査事業量が減少してきた中で、ここ数年景気回復により発掘調査件数は増加している。一方で、行財政改革が進められるなど、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しており、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域作りに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

届出件数の推移 ※H19年度以降は各市町内での処理件数は含まない。



年度	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
届出件数	315	359	410	508	513	671	659	738	642	677	775	850	1050	1161	458	412	355	414	368	428	497

発掘調査件数の推移



年度	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
学術調査	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5	3	5	11	8	14	3	10	18	12	6	6
緊急調査	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160	170	175	214	259	191	177	179	195	180	199	244
合計	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165	173	180	225	267	205	180	189	213	192	205	250

2013年度 県内発掘調査一覧

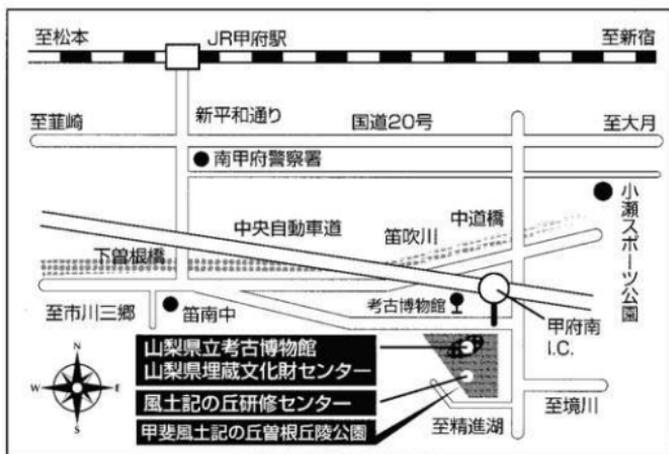
No	遺跡名	所在地	面積(m ²)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
1	岩窪遺跡	北杜市小瀬(関子下屋)	425.52	集落跡	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.4.5
2	上ノノリ平遺跡	北杜市長坂町大井ヶ森	567.00	集落跡	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.4.4 ~ H25.4.5
3	御所遺跡	北杜市高根町五所田	697.87	集落跡	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.4.4
4	金地蔵遺跡	須吹市大代町北	120.00	散布地	古墳・奈良・平安・中世	その他建物(保体庫建設)	須吹市教育委員会	H25.4.19
5	山道第2遺跡	須吹市中田町中樫字宮下	1064.00	散布地	縄文	その他開発(駐車場建設)	須吹市教育委員会	H25.4.22
6	包蔵地外	南アフルス市小笠原	10.50	散布地	個人住宅	集合住宅	南アフルス市教育委員会	H25.4.24
7	宮原遺跡	須吹市法蓮	10.00	散布地	近世	道路	須吹市教育委員会	H25.4.24 ~ H25.4.26
8	橋原・御所地役所	須吹市法蓮町井之上	9.00	集落跡	縄文・奈良・平安	個人住宅	須吹市教育委員会	H25.4.16
9	甲府遺跡	甲府市丸の内一丁目	78.15	城郭跡	古墳・近現代	その他建物(防災倉庫)	山梨県河津文化財センター	H25.4.22 ~ H25.4.27
10	宮下遺跡	須吹市旭町上樫北清字宮下	289.99	集落跡	縄文・古墳	個人住宅	須吹市教育委員会	H25.4.25
11	宮元根C遺跡	北杜市高根町上樫清字宮元根	666.99	集落跡	縄文・古墳	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.4.1
12	前付遺跡・大杉寺遺跡	須吹市境田町寺尾字殿元	17700.00	集落跡・社寺跡・その他の施設	縄文・古墳・奈良・平安・中世	その他開発(2号線建設及び埋蔵品調査)	須吹市教育委員会	H24.3.18 ~ H25.11.30
13	天ノ駒遺跡	南都留郡富士河口内町前川字宮ノ木	2.00	散布地	平安	個人住宅	富士河口内町教育委員会	H25.4.26
14	野矢遺跡	甲府市千塚一丁目	153.60	散布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.4.28
15	堀の内遺跡	甲府市玉川	132.75	城郭跡	中世	その他建物(寺院本堂)	甲府市教育委員会	H25.4.22
16	武田城下町遺跡	甲府市堀形三丁目	1311.11	城下町	中世	宅跡造成	甲府市教育委員会	H25.5.8
17	小山平野遺跡	甲府市堀形三丁目字小山平	1444.00	散布地	縄文・平安	宅跡造成	甲府市教育委員会	H24.5.8 ~ H25.5.15
18	神田遺跡	甲府市電王新町	64.00	散布地	縄文・奈良・古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.5.13
19	前付遺跡・大杉寺遺跡	須吹市境田町寺尾字殿元	300.00	社寺跡	中世	その他開発(2号線建設及び埋蔵品調査)	須吹市教育委員会	H24.5.8 ~ H25.5.10
20	越が丘一丁目遺跡	甲府市越が丘一丁目	477.96	集落跡	古墳	宅跡造成	甲府市教育委員会	H24.4.25 ~ H25.5.15
21	根田遺跡・塚本遺跡	甲府市千塚一丁目	1900.00	散布地	近世	道路	甲府市教育委員会	H25.5.14
22	朝気遺跡	甲府市朝気二丁目	3.50	集落跡	縄文・奈良・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.5.15
23	坂井南大塚遺跡	某城市藤井町北下様字高松	349.20	集落跡	個人住宅	個人住宅	某城市教育委員会	H25.5.14
24	山道第2遺跡	某城市山道町中樫字山道	1064.00	散布地	縄文	その他開発(駐車場建設)	某城市教育委員会	H25.4.24 ~ H25.5.9
25	大田第D遺跡	南アフルス市大田	9.00	散布地	中世・近世	店舗	南アフルス市教育委員会	H25.5.16
26	宮ノ新第4遺跡	某城市藤井町朝日字宮ノ新	230.74	集落跡	縄文・平安	個人住宅	某城市教育委員会	H25.5.22 ~ H25.5.31
27	朝気遺跡	甲府市朝気二丁目	520.66	集落跡	縄文・奈良・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.5.22 ~ H25.5.31
28	朝気遺跡	甲府市朝気二丁目	520.66	集落跡	縄文・奈良・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.5.22 ~ H25.5.31
29	赤田遺跡	山梨県東	14.00	散布地	縄文	農林整備御事業(農道含む)	山梨県教育委員会	H25.4.20 ~ H25.5.1
30	西ノ首遺跡	甲府市七日市山	90.00	散布地	中世	宅跡造成	甲府市教育委員会	H25.5.13 ~ H25.7.12
31	武田城下町遺跡	甲府市堀形三丁目	345.00	城下町	縄文・平安	農林整備御事業(農道含む)	甲府市教育委員会	H25.5.25 ~ H25.11.29
32	上原遺跡	南口尊徳宮土川町青柳町字惣草池	3500.00	集落跡	近世	農林整備御事業(農道含む)	富士川町教育委員会	H25.5.27 ~ H25.6.28
33	藤田遺跡	南アフルス市藤田地内	9.15	散布地	縄文	農林整備御事業(農道含む)	南アフルス市教育委員会	H25.4.16
34	武田北原遺跡	某城市神山町武田字北原	533.97	集落跡	個人住宅	個人住宅	某城市教育委員会	H25.5.23
35	上ノ平遺跡	甲府市武田二丁目	13.50	城下町	近世	農林整備御事業(農道含む)	甲府市教育委員会	H25.5.27 ~ H25.5.30
36	甲府城下町遺跡	南口尊徳宮惣草池町下山	400.00	その他	縄文・中世	その他建物(駐車場)	甲府市教育委員会	H25.5.29 ~ H25.5.30
37	廻生瀬遺跡	須吹市つるぎ五丁目	60.00	散布地	縄文	その他建物(薬局建設)	北杜市教育委員会	H25.4.9 ~ H25.5.20
39	小泉歌遺跡	北杜市長坂町大八田字高松	670.00	集落跡	縄文・平安・中世	その他建物(薬局建設)	北杜市教育委員会	H25.5.9 ~ H25.5.16
40	菅の神遺跡	北杜市高根町東井田字新	406.16	散布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.5.9 ~ H25.5.16

41	原田第2遺跡	北本市大皇町西井出	499.00	散布地	平安	個人住宅	北本市教育委員会	H25.5.7 ~ H25.5.15
42	西塚A遺跡	甲州市鬼山小尾	1790.00	散布地	平安・中世	宅跡・竪穴	甲州市教育委員会	H25.6.6 ~ H25.6.16
43	包蔵地外	南アルプス山荘	20.00			宅跡・竪穴	南アルプス山荘教育委員会	H25.6.6
44	御岳田遺跡	甲斐市天下谷	199.53	集落跡	古墳・平安・中世	古墳	甲斐市教育委員会	H25.5.23 ~ H25.5.24
45	大津C遺跡	北本市大皇町西井出山崎	500.00	集落跡	縄文・平安	個人住宅	北本市教育委員会	H25.4.22 ~ H25.4.30
46	大坪遺跡	北本市北	696.13	散布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北本市教育委員会	H25.5.16
47	藤澤遺跡	山梨市高野町黒字坂上	440.00	散布地	縄文・平安	道路	山梨県縄文文化財センター	H25.6.10 ~ H25.7.31
48	包蔵地外	南巨摩郡南巨摩町穴島・福土平	5900.00			道路	山梨県縄文文化財センター	H25.6.17 ~ H25.6.28
49	坂上遺跡	北本市高野町黒字坂上	6301.00	集落跡	縄文・平安・中世	土葬採取	北本市教育委員会	H25.4.24 ~ H25.5.2
50	小田遺跡	大月市高野町藤崎字長久保	2.00	散布地	平安	個人住宅	大月市教育委員会	H25.6.20
51	甲府城下町遺跡	甲府市中区四丁目	102.33	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.6.12 ~ H25.7.3
52	小瀬氏館跡	甲府市小瀬町	58.00	館跡跡	中世	宅跡・竪穴	甲府市教育委員会	H25.6.21 ~ H25.6.24
53	包蔵地外	南巨摩郡身延町和田	16000.00			道路	山梨県縄文文化財センター	H25.7.2
54	北下榎田遺跡	甲府市藤井町下榎字水無	237.43	集落跡	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.6.24
55	北下榎田遺跡	甲府市藤井町二丁目	3.70	城下町	近代	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.6.27
56	板井御遺跡	甲府市高畑二丁目	113.00	その他の遺跡(包蔵地)	奈良・古墳・奈良・平安	その他建物(特別保護老人ホーム)	甲府市教育委員会	H25.6.26 ~ H25.6.28
57	鹿野八反田遺跡	甲府市高畑町野村八反田	4961.72	集落跡	平安・古墳・平安	その他建物(給食センター)	甲府市教育委員会	H25.7.10 ~ H25.8.31
58	大月市高野町夜須	大月市高野町夜須	2.00	散布地	縄文	その他建物(社会福祉施設)	大月市教育委員会	H25.7.9
59	大津B遺跡	甲斐市宇津谷	1074.00	集落跡	縄文	宅跡・竪穴	甲斐市教育委員会	H25.7.1
60	柳沢遺跡	南巨摩郡身延町清子	4.00	散布地	縄文	ガス・電気・電話・水道	身延町教育委員会	H25.7.23
61	秋山氏館跡	甲府市高畑二丁目	4.00	城館跡	平安・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.7.16
62	中尾根遺跡	北本市高畑町真輪字中尾根	859.54	散布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北本市教育委員会	H25.4.25
63	北小路遺跡	北本市赤田町黒澤	690.14	散布地	縄文・中世	個人住宅	北本市教育委員会	H25.5.15
64	東下屋敷遺跡	北本市長坂町白井沢字東下屋敷	632.00	散布地	縄文	個人住宅	北本市教育委員会	H25.6.10
65	東入遺跡	北本市高野町黒字字穴渡	590.00	散布地	縄文・古墳	個人住宅	北本市教育委員会	H25.7.3
66	柳沢上原遺跡	北本市赤田町柳沢字上原	351.27	散布地	縄文・平安	個人住宅	北本市教育委員会	H25.6.10
67	岩林遺跡	南巨摩郡身延町和田内	10890.00	集落跡	縄文	道路	山梨県縄文文化財センター	H25.6.10
68	三宮寺遺跡	山梨市丸内、正徳寺	600.00	城館跡	平安・中世	その他開発(太陽光発電事業)	山梨県縄文文化財センター	H25.8.1 ~ H26.1.31
69	甲府城跡	甲府市丸の内一丁目	50.00	城館跡	中世・近世	保存目的の縄文遺跡	山梨県縄文文化財センター	H25.7.22 ~ H25.8.23
70	大坪遺跡	甲府市桜井町	9.00	集落跡	古墳・奈良・平安	道路	山梨県縄文文化財センター	H25.7.20 ~ H25.7.27
71	太土氏屋敷跡第二	韮崎市和田町中条	536.00	城館跡	中世	個人住宅	山梨県縄文文化財センター	H25.8.5 ~ H25.8.9
72	大津西遺跡	甲府市千原四丁目	31.00	散布地	古墳	宅跡・竪穴	甲府市教育委員会	H25.7.16 ~ H25.7.29
73	柳井氏屋敷跡	南巨摩郡身延町井原寺宮	941.77	城館跡	中世	個人住宅	南巨摩郡身延町教育委員会	H25.7.26 ~ H25.8.2
74	大津西遺跡	甲府市千原四丁目	24.00	城館跡	奈良・古墳	道路	甲府市教育委員会	H25.7.24 ~ H25.8.2
75	願成寺境内付遺跡	韮崎市神山町瀬田	2450.37	社寺跡	近世	その他建物(寺院本殿・庫裏)	韮崎市教育委員会	H25.5.10 ~ H25.8.6
76	野牛高・大塚遺跡・野牛高・石橋遺跡	南アルプス山荘野牛高	58.60	散布地	奈良・平安・中世	宅跡・竪穴	南アルプス山荘教育委員会	H25.7.29 ~ H25.8.1
77	包蔵地外	南アルプス山荘今野字金丸	894.00			集合住宅	南アルプス山荘教育委員会	H25.8.12
78	養老堂遺跡	笛吹市一宮町木本	150.00	集落跡	奈良・平安・中世	その他建物(時点建物修理)	笛吹市教育委員会	H25.8.20 ~ H25.11.15
79	御岳田遺跡	甲斐市山下茶	97.36	集落跡	古墳・平安・中世	集合住宅	甲斐市教育委員会	H25.8.23
80	山形遺跡	南巨摩郡身延町下榎字山形	796.00	集落跡	縄文・平安・中世・近世	宅跡	南巨摩郡身延町教育委員会	H25.8.21
81	包蔵地外	南アルプス山荘山寺	6.75			宅跡・竪穴	南アルプス山荘教育委員会	H25.8.26
82	包蔵地外	南アルプス山荘吉田	2809.00			宅跡・竪穴	南アルプス山荘教育委員会	H25.8.22 ~ H25.8.23

83	編組塚等1.0遺跡跡地名墳	笛吹市八代町竹居	15.00	古墳	古墳	奈良・吉墳・奈良・平安	奈良基盤整備事業(農道含む)	笛吹市教育委員会	H25.8.26 ~ H25.8.30
84	根田遺跡	甲府市千代田二丁目	380.00	散布地	近世	奈良・吉墳・奈良・平安	遺跡	甲府市教育委員会	H25.8.21 ~ H25.11.30
85	大月遺跡	大月市大月二丁目	2.00	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安	縄文・弥生・奈良・平安	その他建物(御厨内貯水構)	大月市教育委員会	H25.8.20 ~ H25.8.23
86	野村遺跡	甲府市藤沢一丁目	45.00	散布地	古墳・奈良・平安	古墳・奈良・平安	その他建物(特別指定老人ホーム)	甲府市教育委員会	H25.8.22 ~ H25.8.23
87	越が丘一丁目遺跡	甲府市越が丘二丁目	3.30	散布地	古墳	個人住宅		甲府市教育委員会	H25.8.8
88	長井町遺跡	甲府市川田町北村	80.00	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅		甲府市教育委員会	H25.8.6 ~ H25.9.6
89	桜井町遺跡	甲府市川田町北村	90.00	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅		甲府市教育委員会	H25.8.6 ~ H25.9.6
90	籠ノ本遺跡	南都留郡富士河口湖町野井口字籠ノ本	2100.00	散布地	古墳・奈良・平安・中世・近世	遺跡		富士河口湖町教育委員会	H25.7.16 ~ H25.8.30
91	長門遺跡	笛吹市境町石橋	35.00	集落跡	縄文・平安	遺跡		笛吹市教育委員会	H25.9.2 ~ H25.9.4
92	滝子遺跡	南都留郡富士河口湖町河口字滝沢	1328.00	集落跡	古墳・奈良・平安	遺跡	山梨県縄文文化財センター		
93	大坪遺跡	甲府市橋町甲	16.00	生産遺跡	縄文	遺跡	奈良基盤整備事業(農道含む)	甲府市教育委員会	H25.8.8 ~ H25.9.13
94	駒町小丸遺跡	甲府市御旗町上里駒	15.00	集落跡	縄文	遺跡	奈良基盤整備事業(農道含む)	甲府市教育委員会	H25.8.8 ~ H25.9.13
95	石影遺跡・南宮区長飯遺跡	笛吹市御旗町上里駒	16.00	集落跡・城跡跡	平安・中世	その他開発(消防用池)		笛吹市教育委員会	H25.9.17 ~ H25.9.20
96	藤西田遺跡	中央市田田堤防	200.00	その他の遺跡(堤防)	近世・近現代	河川		中央市教育委員会	H25.9.11 ~ H25.9.12
97	天海田遺跡	甲府市千代田四丁目	110.00	散布地	古墳	遺跡		甲府市教育委員会	H25.8.26 ~ H25.9.20
98	宮ノ新第4遺跡・宮木遺跡	某崎市藤井町観見堂	15.00	集落跡	弥生	その他建物(共同溝)	山梨県縄文文化財センター		
99	木立寺遺跡	甲府市菅野町休息	4948.20	社寺跡	近世	その他建物(共同溝)	甲府市教育委員会		
100	カヌエ遺跡	甲府市藤那三丁目	4.00	集落跡	個人住宅			甲府市教育委員会	H25.9.27 ~ H25.9.30
101	下塚遺跡	甲府市藤那三丁目	50.00	その他の遺跡(堤防遺跡)	中世・近世	上地区画整理		甲府市教育委員会	H25.7.23 ~ H25.8.30
102	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	10.00	散布地	縄文・平安	その他開発(消防用池)		笛吹市教育委員会	H25.9.24 ~ H25.9.26
103	金の尻遺跡	甲斐市大下	1437.08	集落跡	中世・近世	上地区画整理		甲斐市教育委員会	H25.9.5 ~ H25.9.30
104	金山遺跡	甲府市堀出上井尻子鶴溝	338.76	散布地	平安・中世・近世	店舗		甲斐市教育委員会	H25.9.17 ~ H25.10.10
105	坂ノ上地神遺跡	南アゾルス市徳水	13.50	散布地	奈良・平安・中世	工場		甲府市教育委員会	H25.10.8 ~ H25.10.31
106	狐塚遺跡	甲府市堀那三丁目	4.00	集落跡	奈良・平安・中世	学校施設		甲府市教育委員会	H25.9.27 ~ H25.9.30
107	渡取第二遺跡	某崎市藤井町北下飯子滝尻	3816.00	集落跡	縄文・平安	その他開発(入浴・トイレ設置)		某崎市教育委員会	H25.10.2
108	下橋原遺跡	某崎市藤井町北下飯子橋原	207.36	集落跡	個人住宅			某崎市教育委員会	H25.9.26
109	馬見塚遺跡・堀田遺跡	笛吹市八代町水井	30.00	散布地	古墳・平安・中世	奈良基盤整備事業(農道含む)		笛吹市教育委員会	H25.9.30 ~ H25.10.2
110	金の尻遺跡	甲斐市大下	1063.00	集落跡	平安・弥生・古墳	宅地施設		甲斐市教育委員会	H25.10.15
111	新居古居集落	某崎市清原町新居古居集落	241.49	城跡跡	中世	個人住宅		某崎市教育委員会	H25.10.21
112	坂ノ上地神遺跡	南アゾルス市徳水	22.17	散布地	奈良・平安・中世	その他建物(農業倉庫)		南アゾルス市教育委員会	H25.10.8 ~ H25.12.31
113	三ノ瀬遺跡	大月市上町子野野	2.00	散布地	縄文	個人住宅		大月市教育委員会	H25.10.31
114	南河原B遺跡	甲府市上谷五丁目	7000.00	集落跡	奈良・平安・中世・近世	学校施設	山梨県縄文文化財センター		
115	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内一丁目	2014.00	城下町	近世	遺跡・その他建物(保潔庫・給湯庫)	山梨県縄文文化財センター		
116	南河原B遺跡	甲府市宮野町四丁目	471.30	集落跡	奈良・平安	宅地施設		甲府市教育委員会	H25.11.8 ~ H25.11.22
117	宮ノ新第4遺跡	某崎市藤井町駒井	4.50	集落跡	個人住宅			甲府市教育委員会	H25.11.11
118	坂井堂ノ館遺跡	某崎市藤井町坂井堂ノ館	163.37	集落跡	古墳・古墳・平安	宅地施設		某崎市教育委員会	H25.10.17
119	寺ノ下遺跡	山梨県小室町	73.00	散布地	縄文	宅地施設		山梨県教育委員会	H25.10.16 ~ H25.11.13
120	深久保遺跡	富士吉田市新字深久保	170.92	散布地・その他の遺	個人住宅			富士吉田市教育委員会	H25.11.13
121	桜切塚遺跡	某崎市藤井町北下飯子桜切塚	673.42	集落跡	縄文・平安	集合住宅		某崎市教育委員会	H25.11.25
122	堀切遺跡	某崎市藤井町北下飯子堀切	92.00	集落跡	縄文・平安	個人住宅		某崎市教育委員会	H25.11.22
123	野田原日遺跡	北杜市野田原	220.00	散布地	古墳	遺跡		上野原山教育委員会	H25.11.29 ~ H25.12.27
124	蔵原東久保遺跡	北杜市高里町蔵原	1324.00	集落跡	縄文	その他開発(ワーナー・ホム・ホム設置)		北杜市教育委員会	H25.6.11 ~ H25.6.28

125	石室・石室・石室	北杜市高根町東井出野字彦	1364.00	敷布地	個人住宅	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.7.9 ~ H25.7.16
126	飯坂・飯坂前遺跡	北杜市高根町真崎字飯坂前	613.00	敷布地	個人住宅	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.7.9 ~ H25.7.17
127	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内三丁目	290.00	城下遺跡	古墳	古墳	甲府市教育委員会	H25.9.26 ~ H25.11.8
128	不動ノ木遺跡	甲府市中下条	756.00	集落跡	個人住宅	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.12.5 ~ H25.12.6
129	神田遺跡	甲斐田竜王町	3407.67	敷布地	その他建物(保育園)	その他建物(保育園)	甲斐田教育委員会	H25.12.7
130	緑ヶ丘二丁目遺跡	甲府市緑ヶ丘二丁目	22.44	敷布地	古墳・奈良・平安	古墳・奈良・平安	甲府市教育委員会	H25.12.16
131	鎌子原代官邸	笛吹市八代町東	100.00	敷布地	保存目的の範囲確認	保存目的の範囲確認	笛吹市教育委員会	H25.11.29 ~ H25.12.27
132	法泉寺遺跡	甲府市和明町	54.00	社寺跡	中世	保存目的の範囲確認	甲府市教育委員会	H25.12.27 ~ H25.12.27
133	身狭河遺跡・真沼澤遺跡(仮称)	笛吹市八代町南	25.00	敷布地・集落跡	弥生・古墳・平安	道路	笛吹市教育委員会	H25.12.9 ~ H25.12.20
134	包蔵地外	笛吹市八代町南	34.00	敷布地	道路	道路	山梨県環境文化財センター	H25.12.9 ~ H25.12.13
135	前田使田原込足群	南アルプス市有野	340.00	敷布地	農業基盤整備事業(農道含む)	農業基盤整備事業(農道含む)	南アルプス市教育委員会	H25.11.18 ~ H26.2.28
136	野牛島・太郎遺跡、洞・獅子塚古墳	南アルプス市御用舟島	216.00	敷布地	古墳・平安	古墳・平安	南アルプス市教育委員会	H25.10.13 ~ H25.11.11
137	加賀美至聖遺跡	南アルプス市御用舟島	20.00	敷布地	古墳	古墳	南アルプス市教育委員会	H25.12.13
138	包蔵地外	山梨市三ヶ所	30.00	敷布地	個人住宅	個人住宅	山梨市教育委員会	H25.11.29 ~ H25.12.19
139	子安遺跡	甲府市勝町休息字子安	4589.00	敷布地	平安	平安	甲府市教育委員会	H25.12.17
140	本郷日遺跡	甲府市善光寺三丁目	180.93	敷布地	平安	平安	甲府市教育委員会	H25.12.17
141	朝又遺跡	甲府市朝又三丁目	30.00	敷布地	個人住宅	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.12.17
142	藤原東久保遺跡	北杜市高根町藤原	1443.00	集落跡	その他開発(太陽光・パネル設置)	その他開発(太陽光・パネル設置)	北杜市教育委員会	H25.12.12 ~ H25.12.13
143	宮ノ前七丁目遺跡、十三宮遺跡、中沢遺跡	山梨市七丁目南	50.00	集落跡	農業基盤整備事業(農道含む)	農業基盤整備事業(農道含む)	山梨市教育委員会	H25.9.18 ~ H25.10.16
144	大久保遺跡	山梨市東	10.00	敷布地	農業基盤整備事業(農道含む)	農業基盤整備事業(農道含む)	山梨市教育委員会	H25.11.5 ~ H25.11.19
145	栗田遺跡	山梨市東	10.00	官衙跡	中世・近世	中世・近世	山梨市教育委員会	H25.11.20 ~ H25.12.4
146	日影田遺跡	北杜市高根町下黒澤字日影田	811.00	集落跡	個人住宅	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.7.12 ~ H25.7.25
147	東原A遺跡	北杜市武田町山崎字A小路	1305.56	敷布地	個人住宅	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.7.23 ~ H25.7.25
148	上町天神遺跡	甲府市上町	1.50	敷布地	個人住宅	個人住宅	甲府市教育委員会	H25.12.24
149	萩井遺跡	東海市萩井町萩井	1000.00	集落跡	個人住宅	個人住宅	東海市教育委員会	H25.12.16
150	三城宮遺跡	甲斐田中下条	84.00	集落跡	個人住宅	個人住宅	甲斐田教育委員会	H26.1.18
151	舟越第一遺跡	北杜市大泉町舟越	111.00	集落跡	個人住宅	個人住宅	北杜市教育委員会	H25.7.29 ~ H25.7.31
152	夏秋遺跡	北杜市小淵町上形尾字西窪	405.60	敷布地	旧跡	旧跡	北杜市教育委員会	H25.7.30 ~ H25.8.2
153	包蔵地外	山梨市東原町東	140.00	敷布地	古墳	古墳	山梨市教育委員会	H25.12.4 ~ H25.12.16
154	包蔵地外	大月市大月町花吹	500.00	敷布地	道路	道路	山梨県環境文化財センター	H26.1.16 ~ H26.2.14
155	金ノ宮遺跡	甲斐田中下条字金ノ宮	2482.00	敷布地	個人住宅	個人住宅	甲斐田教育委員会	H26.1.23 ~ H26.1.24
156	古塚古墳	甲斐田竜王町	8.50	古墳	古墳	古墳	甲斐田教育委員会	H26.1.25
157	身狭川跡跡(仮称)、真沼澤遺跡	笛吹市八代町南	30.00	敷布地	その他建物(保育園)	その他建物(保育園)	甲斐田教育委員会	H26.1.20 ~ H26.1.24
158	日下部朝庭前遺跡	山梨市上野川町	22.00	敷布地	道路、個人住宅七瀬上堀又は伝馬	道路、個人住宅七瀬上堀又は伝馬	山梨市教育委員会	H26.1.21
159	物平本田遺跡	南巨摩郡身延町物平	4.00	集落跡	個人住宅	個人住宅	身延町教育委員会	H26.1.23
160	菅沼遺跡	南巨摩郡身延町寺子	4.00	城郭跡	その他建物(防長城跡中継局舎)	その他建物(防長城跡中継局舎)	身延町教育委員会	H26.1.31
161	駒井砂宮神遺跡	東海市駒井町砂宮神	467.97	集落跡	個人住宅	個人住宅	東海市教育委員会	H26.1.24
162	前田遺跡	甲府市上野朝町字前田	4.00	敷布地	個人住宅	個人住宅	甲府市教育委員会	H26.1.28
163	前田遺跡	甲府市池田三丁目	45.00	敷布地	七塚遺跡	七塚遺跡	甲府市教育委員会	H26.1.14 ~ H26.2.14
164	大神宮遺跡	笛吹市一宮町堀田	10.00	敷布地	個人住宅	個人住宅	甲府市教育委員会	H26.1.28 ~ H26.2.23
165	天澤宮遺跡	笛吹市八代町南	25.00	敷布地	その他開発(太陽光・パネル設置)	その他開発(太陽光・パネル設置)	笛吹市教育委員会	H26.2.4 ~ H26.2.7
166	天澤山古墳	甲府市下向山町	74.00	古墳	保存目的の範囲確認	保存目的の範囲確認	甲府市教育委員会	H26.2.10 ~ H26.5.31

167	節取原遺跡	甲州市塩山中森原	398.00	集落跡	縄文	その他建物(グループホーム)	H26.2.6 ~ H26.2.13
168	山形遺跡	甲州市藤井町南下榎字山影	4.00	集落跡	縄文・弥生・平安・中世	集合住宅	H26.1.31 ~ H26.2.7
169	山形遺跡	甲州市藤井町南下榎字山影	523.66	集落跡	縄文・弥生・平安・中世	甲州市教育委員会	H26.1.31 ~ H26.2.7
170	山形遺跡	甲州市藤井町南下榎字山影	188.20	集落跡	縄文・弥生・平安・中世	個人住宅	H26.1.31 ~ H26.2.7
171	船山遺跡	甲州本町三丁目	277.31	集落跡	縄文・平安	その他開発(神社建替)	H25.12.6 ~ H26.1.20
172	宮木遺跡	甲州市藤井町北下榎字宮木	737.84	集落跡	縄文	甲州市教育委員会	H25.11.21 ~ H26.1.14
173	東入遺跡	北州市高槻町下里沢字東入	477.00	集落跡	個人住宅	甲州市教育委員会	H25.7.30
174	下津之本遺跡	北州市高槻町八位町北	90.00	散布地	縄文・古墳	北州市教育委員会	H26.2.13 ~ H26.3.14
175	宮ノ新原遺跡	甲州市八位町北	372.50	集落跡	弥生・古墳・平安・中世	甲州市教育委員会	H26.1.28 ~ H26.2.27
176	吉沢遺跡	甲斐市吉沢	4.50	集落跡	縄文・奈良・平安	その他建物(合併浄化槽)	H26.3.14
177	甲府城下町遺跡	甲府市中央一丁目	7.20	城下町	近世	店舗	H26.2.21 ~ H26.3.14
178	甲府城跡	甲府市中央一丁目	160.00	城跡	近世・近現代	山形県環境文化財センター	H26.2.24 ~ H26.3.20
179	八坂東遺跡	甲府市千塚一丁目	104.20	散布地	縄文・古墳	甲府市教育委員会	H26.3.13 ~ H26.3.28
180	東入遺跡	甲州市八位町末倉字桑田	40.00	その他	奈良・平安	その他開発(既述センター)	H26.3.13 ~ H26.3.19
181	船之窪遺跡	北州市長堤町大八田字船之窪	932.00	散布地	個人住宅	北州市教育委員会	H26.8.7 ~ H26.8.8
182	黒澤遺跡	北州市武田郡黒澤字黒	1860.00	集落跡	縄文	その他開発(太陽光発電施設)	H25.7.31
183	佐の上園人口遺跡	北州市高槻町前原字上園	961.00	散布地	縄文	北州市教育委員会	H26.7.31 ~ H26.8.2
184	大塚遺跡	北州市武田郡宮崎字大塚	894.00	散布地	縄文・平安・中世・近世	北州市教育委員会	H26.3.3 ~ H26.3.5
185	大津西遺跡	甲府市千塚四丁目	5.00	散布地	古墳	甲府市教育委員会	H26.3.7
186	山口遺跡	北州市高槻町山東陣字金山	386.00	集落跡	縄文	個人住宅	H25.9.3 ~ H25.9.4
187	高沼原B遺跡	北州市高槻町五町田字高沼原	385.88	散布地	個人住宅	個人住宅	H25.8.8 ~ H25.8.9
188	若物沢遺跡	甲斐市高瀬字若物沢	4920.00	散布地	縄文	七尾遺成	H26.3.24 ~ H26.3.25
189	前田北遺跡	北州市小淵町町上原	2000.00	散布地	縄文	甲斐市教育委員会	H26.3.12 ~ H26.3.25
190	南田遺跡	北州市白根町白須字南原	337.00	散布地	縄文・平安	その他開発(太陽光発電施設)	H25.9.19 ~ H25.9.20
191	山本遺跡	北州市長堤町長堤下東内	1888.00	散布地	縄文	個人住宅	H25.9.4
192	甲斐国分足方跡北遺跡	甲斐市宮町東原	16.00	土跡	奈良・平安・中世	北州市教育委員会	H25.9.3
193	宮池地外	南アルプス市上川	15.75		奈良・平安・中世	北州市教育委員会	H26.3.24 ~ H26.3.25
194	寺部村間第6遺跡	南アルプス市寺部	64.50	散布地	古墳・平安	南アルプス市教育委員会	H26.3.25
195	甲府城下町遺跡	甲府市中中央二丁目	14.00	城下町	近世	南アルプス市教育委員会	H26.3.26 ~ H26.3.28
196	甲府城下町遺跡	甲府市中中央二丁目	4.00	城下町	近世	その他開発(駐車場舗装)	H26.3.27 ~ H26.3.27
197	甲府城下町遺跡	甲府市中中央四丁目	28.00	城下町	近世	甲府市教育委員会	H26.3.10 ~ H26.3.20
198	山口遺跡	北州市高槻町山東原	430.15	集落跡	個人住宅	北州市教育委員会	H25.10.3
199	下野遺跡	北州市高槻町真輪町字下野	521.00	散布地	縄文・平安	北州市教育委員会	H25.10.4
200	新井B遺跡	北州市高槻町山北酒子新井	494.00	散布地	縄文・平安・中世	北州市教育委員会	H25.10.4
201	舟山遺跡	北州市高槻町舟山	634.13	散布地	弥生	北州市教育委員会	H25.10.8
202	舟山遺跡	北州市高槻町小池字中原	682.00	散布地	弥生	北州市教育委員会	H25.10.8
203	豆生田第3遺跡	北州市大泉町字豆生田	961.00	集落跡	縄文・平安・中世	北州市教育委員会	H25.10.9
204	七の原C遺跡	北州市高槻町山北酒子持井	381.50	散布地	縄文・中世	北州市教育委員会	H25.10.9
205	豆生田第5遺跡	北州市大泉町谷戸	425.00	散布地	縄文・平安・中世	北州市教育委員会	H25.10.10
206	大正寺遺跡	北州市高槻町山西	555.00	集落跡	縄文	その他開発(太陽光発電施設)	H25.10.11 ~ H25.10.22
207	長崎A遺跡	北州市高槻町小池	798.34	散布地	縄文・古墳・平安・中世	個人住宅	H26.10.23
208	深沢遺跡	北州市小淵町字深沢	715.65	散布地	縄文	北州市教育委員会	H26.1.10



●路線バスご利用

甲府ー豊富（中道橋経由）考古博物館で下車

●高速バスのご利用（2時間）

新宿西口…南回り、甲府行（中道下車）徒歩5分

甲府南インター下車・徒歩10分

年 報 30

印刷日 2014年10月27日

発行日 2014年10月31日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016・055-266-3881

FAX 055-266-3882

E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 株式会社 少国民社

山梨県甲府市丸の内2-7-24

TEL 055-226-2125
